

婦人関係資料シリーズ
一般資料 第二五号

賣春に関する諸問題

労働省婦人少年局

は し が き

婦人少年問題審議会婦人問題部会では労働大臣の諮問に答えて昭和二十七年十二月「売春問題の対策に関する答申」を行いました。さらにひきつづき売春問題を取りあげ、各委員それぞれの立場からの研究報告にもとづいて研究討論しました。

ここにかかげましたのは、本年二月五日から七月九日までの間、五回にわたつて発表された各委員の研究報告ですが、売春問題に関心を持たれる方々の御参考に供するため、ここにとりまとめ発行することとしました。

昭和二十九年九月

売春に関する諸問題

目次

基地売春の歴史的実態

——山中湖畔キヤンブマダネアを中心として——

神崎 清

一、占領軍進駐当時の事情	一
二、昭和二十二年より二十五年朝鮮事変勃発まで	二
三、朝鮮事変勃発当時	三
四、昭和二十六年	六
五、昭和二十七年	八
六、結 び	一〇

基地売春の状況

——千葉県木更津——

式場 隆三郎

一、街の概況	一一
二、売春婦について	一三
三、周囲の関心状況	一七

売春とヒロポン

那須 宗一

一、ヒロポン等について	一九
二、ヒロポン使用者たち	二〇
三、売春とヒロポン	二二
四、不正販売	二三
五、密造者	二四
六、ヒロポン患者	二五

性病からみた売春

高橋 明

一、性病の概念	二六
梅毒、軟性下疳、口蹄瘡、肉芽腫	
二、性病の蔓延状況	三一
三、性病の感染源	三一
四、売春婦の性病	三一
五、特飲街の探訪	三五
赤線区域——龜有、芸妓街——新橋、神楽坂	
六、その他こぼれ話	三九

前借金の法律的問題

西塚 静子

三、前借金問題

二、判例にみられる前借金問題の歴史

——明治より終戦時まで——

三、判例にみられる前借金問題——終戦後

四、結 び

四一
四二
四五
四九

売春婦のアフターケア

山室 民子

一、更生寮にはいつている婦人

二、売春婦への転落防止及びアフターケア案

三、更生寮の現状

四、更生寮に関して将来への希望

五、一般社会との融合の問題

——彼女等の心理との関連において——

五〇
五一
五三
五四
五六

売春問題とマスコミニケーション

望 月 衛

一、売春問題とマスコミニケーション

二、性教育をばむもの——本能論、ホルモン論

三、性教育

五八
五九
六一

社会調査の結果からみた赤線区域

泉 靖一

一、調査の概要

二、調査結果について

1. 業態婦の生産 —— 新宿

2. 地域社会の変化の問題 —— 鳩の街

3. 赤線区域が出来る場合の問題 —— 原町田

六七
六八
六八
七二
七三

赤線区域について

—— 吉原、龜有、新宿 ——

平 林 ない子

一、赤線区域の概況

二、売春婦の生産

三、赤線区域の将来

七四
七五
七九

(研究発表順)

基地売春の歴史的事態

― 山中湖キャンブマグネアを中心として ―

神 崎 清

基地売春の問題は全国各地に亘つて範圍が広いので、今日は山梨県の山中湖畔キャンブマグネア、を中心にして基地売春の構造とか骨格というものを明かにしてみたい。その資料としては、参議院の法務委員会の専門委員室から、売春等処刑に関する参考資料として、富士山麓、とくに山中湖及び御殿場町を中心とする売春の実態というレポートが出ています。これは昨二十八年の六月三日、参議院議院の法務委員である宮城タマロ、龜田得治、赤松常子氏が出向いて視察したときの状況を報告されたものでありますが私共から見るとちよつと甘いと思われれます。

幸いもう一つ保健所の立場から見た夜の女の実態を記したものは山梨県の吉田保健所長の志村聖厚氏が昭和二十七年の八月に発表された短いレポートであります。これは基地売春の内側から観察した資料として大変貴重なもので、今日はこの志村レポートを中心に御紹介しながら話を進めてみたいと思います。

一、占領軍進駐当時の事情

昭和二十八年八月十五日終戦になつて、二十八日にアメリカの占領軍が厚木に進駐してきました。その一隊がやがて山中湖畔にキャンブマグネアを設営したわけですが、ここにどう書いてあります。

「吉田保健所が性病予防策に乗り出したのが昭和二十一年一月十二日からである。その当時吉田地区には花柳界があつて、料理屋二十四軒、芸者置屋三軒、飲食店六十三軒であつた。進駐軍の将兵がやつて来た時、最初は上ノ原という処に駐屯していたので、上記の業者の中、有志が水釜で上ノ原町の慰安所に送られ、彼等のサービスをしていたのである。

ですから最初上ノ原の駐屯地に慰安所が造られた。これは御承知のように八月十八日に内務省警保局から無線電信で、進駐軍に備えて性的慰安施設を造るという指令に基いて、山梨県警察が業者に話して協力して造り上げた慰安所であつたのです。

米軍が上ノ原から、さらに山中湖畔のキャンブマグネアに進駐して来た。その数を増す毎に当時側でキャンブマグネアに売春婦の現出増をなし、サービスをしたのである。

つまり、キャンブの娯楽へ女達を送り込んで娯楽をさせたのです。同時に司令官及び軍医は吉田地区署を通じ、吉田保健所宛に、提供する女子についての検診を実施するよう命令し寄附した。その当時の接産婦数四十八名。業者二十四名。受検率は九〇乃至九五%、難病率は三〇%を超えていなかった。その週一回検診、血液検査は、月一回進駐軍将兵に性的サービスをする女性については、再度現地出張前日に保健所において再検査をなし、異常ないと認められたものののみ引率の下にキャンブ・マダネアに送られたのである。

これで結局米軍基地周辺の風紀の乱れる原因がキャンブの周辺でなく、むしろキャンブの内部から流れ出しているというところが明かになつてきたのです。キャンブの司令官が、兵隊の性的需要のために計画を立てて、警察、保健所、日本の機関を道し、女を組織的に提供させた。この事実がクツキリ出てきたわけです。

この問題に関して私は「夜の基地」という本の中で「米軍性的進駐史」というのをまとめた中に書きましたが、九月二十七日でしたが、G.H.Q.が、東京都市防課長と謝野博士を呼び出して、米軍将兵のための性的慰安施設の制当をやつてゐるわけです。これ等は一連の口頭による女の調達命令と考えていいのじゃないか。調達命令の場合は公的なものと私物命令というのがあつて、司令官なり将校が個人的に勝手に軍の名において出している命令もあるのです。

これはどちらのものか、調達命令乃至計画書の実物が手に入ればわかると思いますが、何れにせよ、オハラ上院議員に対するアメリカの国防長官の答弁——御承知のようにキャンブ周辺の娯楽は日本政府が悪いので、米軍は何等関知しないという公的声明——を覆す事実がこのレポートの中に出てきている。この点でこの文獻は非常に大きい価値を持つてゐる。

二、昭和二十二年より二十五年朝鮮事変勃発まで

昭和二十二年になり船津地区の業者がこれに参加して来た船津地区は河口湖の船着場にある町です。警察では船津港の取締りとしていたというが、組織的に提供している娯楽でない娯楽——もぐりのパンパン——の取締りを実施していた。当時保健所が不備であつたため、米軍の軍医から薬品を無料で提供されていたらしくアメリカの薬品を使つてゐるということが書いてあります。

それから二十三年頃になつて、約七百名の米兵がキャンブ・マダネアに入つてきた。これから動きが大きくなつてくるわけです。すなわちもぐり業者が集つてきて、性病が蔓延し、米軍将兵に性病が拡つてきたので、吉田地区署では取締り絶化を軍から厳命

されて、全警員で取締りに當つた。こういうことは現在はないんですが、当は軍命令と言つて、金機能を挙げて取締りに當つてゐた。

その頃、日本の風俗史の立場から言つて、大きな出来事としては、二十三年の九月に風俗営業取締法が制定され、従来の「カネエ」、料理屋、待合、キャバレー、ダンスホールという風俗を乱す娯楽業ではないけれども女を使つていて風俗を乱すおそれのある営業というものがこの法律の枠の中に入れられたことです。一種の娯楽予防法なんです。しかし実際問題としては従来の貸座敷業、それから営業権を持つていなかった私娼娼のパンパンに対して、地域によつては風俗営業としてカネエ等の看板をやつたわけです。この風俗営業法が出来るとそれに基く地方での施行条例の具体的なものができるわけです。

その一例を見ると、山梨県の施行条例の第四條に、風俗営業許可の対象地域として「住宅地区商家が立並んでゐるところ及び学校、病院敷地の境界線から百メートル以内の場所を除く。但し公安委員会において善良の風俗を害するおそれがないと認めた時はこの限りでなし。」となつており、とにかく、学校、病院、住宅地区、その附近では営業を許可しないという原則が出来てゐるわけです。

ところが山中湖畔に行きますと、喫茶店とかビヤホールということで許可を取つており風俗営業の許可ではなく、喫茶店だというので、この適用を免れてゐる。しかし実際は風俗営業法違反になるのです。そういう法律関係がここへ顔を出して来たというだけ申しておきます。

面白いのは、風俗営業取締施行内規というものを果で作つてゐるのですが、それを見ますと、悪い犯罪を犯した者——強姦罪、猥褻罪、賭博、痴漢等の罪により刑罰を受け、なお改悔の見込のない者には営業の許可をやらないうことになつてゐる。これを厳重に適用するとひつかかる業者が多いと思うのに、この内規が眠らされてゐるということも指摘したい。

三、朝鮮事変勃発当時

それから二十五年六月になつて、朝鮮事変の勃発に伴つて、米軍が大動員、大訓練をやつた。そのためにキャンブ・マダネアは急に賑やかになつてきたわけです。その時、入つて来た隊の部隊長は、独自の立場で、保健所及び開業医の検診を受けた無病の婦女に対しては、米將兵との交渉を黙認するの華に出たので、各業者はおどろき喜び、兵隊を吸収したので、パンパンと兵隊のサービスは、公然とした見世物になり、この時から非常に大びらになつてきたわけです。

中野村の村長も「ヤンキー司令官から酒と女で其の味を大いに楽しめてくれた」といっている。

ところが性病の蔓延、及び内部でも問題が起つたのであり、八月に至り米軍司令官、M.D.隊長が、各隊隊長、保健所長、各業者代表を招集して、次の訓令を出した。これは非常に厳格な訓令です。

- 一、現在山中地区、吉田地区に入籍中の女性を全部追放すること。
- 二、進駐軍将兵を相手として娼淫をしてはいけぬ。娼淫を営むてはいけぬ。
- 三、旅館は、兵隊一人の場合はいいが、婦人を連れさせた場合は宿泊させてはいけぬ。
- 四、飲食店での飲食は事故を起さぬ程度自由である。
- 五、夜の女は、D予防法で徹底的に取締る。

このやうに非常に厳格な訓令が出来た。それに基いて、地区の警察署、それから保健所では各町村長、各業者に告示を出したわけですが、この告示は「これが営業は将来日本国民の中堅となるべき男女青少年に及ぶべき行為にして甚だ遺憾さるべき状態である」という立場から次のような申渡しをしています。

- 一、旅館に非ずして娼春常習者を宿泊させている者は、食品衛生法、旅館業法、性病予防法等により取締り、違反者については処罰する。いかなる例外も認めず。

これは、法律の完全適用方法をとつたわけです。

- 二、娼春常習者については性病予防法により取締り処罰する。

- 三、娼春常習者（内、外国人を問はず）他人に斡旋した者は性病予防法により取締り違反者は罰する。

- 四、料理、飲食店の許可なき者が金銭的關係により料理、酒類を提供した場合は、食品衛生法により取締り違反者は処罰する。

- 五、旅館、飲食店において娼春常習者を宿泊させてその行為のありたる場合は性病予防法により取締り違反者は処罰する。ということ。法律の完全適用、場合によれば拡張解釈の線が見られるほど緊張した体制をとつたわけです。

この時、山中湖畔の中野村で、有名な条例を村長が出しました。この条例は大変な命令であつて、「中野村風俗並に娼淫等取締条例」といふ、村長が全部権限を握つて、娼春そのものは禁止してないんです。娼春は娼春保護条例でたつたわけです。性病を持つて治療を受けたような場合は、村から追放するとか、いろいろ権限を持つた。……何と云いますか、この間衛生でヤンキー

問題がおこつた時に、町会等で慌てて米軍に自衛を申出たと同じ政治技術で、憲法違反の疑があるため、地区警察署で掘上げにしてしまつて全然一回も適用を受けていないのです。ところが、そういうふうにビビビやつてみたものの、後で申しますが、中野は耕地を取り上げられ、山林は出入りが出来なくなつて、非常に生活苦に陥つていたような状態で、村民達は娼春からうける利益に期待するような態度が出てきていた。この取締り強行の期間は長く続かなかつた。兵隊の慾望を抑圧することは不可能なことであるからというので結局緩んできたが、部隊が移動する毎に取締方針が変つてくる。これは全国共通の現象ですが、警察も保健所も非常に困惑した。八月終りに、ヤンブマグネアの憲兵が来署して、管内の娼春常習者に対して検診をなし、その者につき、性病その他の伝染病疾患の有無につき、英文の証明書に記入し、本人に携帯させるよう指示を受けた。結局検診カードの発行というところへ落着いた。検診カードによつて、女の娼春及び性病を管理して行くという方法が取られたわけです。

この証明書の発行禁止について、厚生省より指示があつたので、保健所長の責任において処理していた。つまり國のほうは、カードを発行してはならないということ、昭和二十四年に厚生省から通達したのですが、結局保健所長の権限においてと言いますが、勝手にやつていたわけです。

この検診カードの問題は、度々出したり引つ込めたりしていましたが、去年の二月でしたが、富士山麓の向う側の御殿場の検診カードの問題を、私どもが摘発し、藤原道子さんが国会で取り上げて、そこでトドメをさしてしまつたわけです。

それから朝鮮事案が拡大してきまして、この頃からバンバンが激増してくるわけですが、こういう奇妙な話が出ております。村民は耕地山林を取られ、収入の道を失ひ、又演習兵がビールを要求し女を要求し、女が居ない場合村の婦女子が横行される。事実数十名が被害を受けたという風説が立ち、風紀がどうの、子供がどうのという問題は頭の中にあつてもどうにもならぬ状態だつた。ここで私はいわゆる婦女子が犯されて危険だという問題についてこういう場合もあるということをお参事になると思ひますから話しますが、初め進駐部隊が入つて来た時、その部隊の司令官は、V、Dさへなければ兵隊の外出を許可したので、バンバンがモンペを穿て村の娘に化けてサービスした時代があるんです。

すなわち昭和二十四年に戻りますが、——昭和二十四年には山中地区一帯に當つて、横浜、東京、神奈川から業者が女を連れて乗り込んで来た。この時分からバンバン及び業者の全国的な移動が始つてきたわけですが警察署とM、Dの取締りが厳重だつたために、バンバンは中野村の山中に逃れていた。そうして兵隊をヤンキーしてはあからさまな野外戦が行われた。ある者は野良猪を

まとい、鉄を担いで百姓娘を装い、山に兵隊を誘い込み、鹿を獲ていた。そのため、善良な本物の百姓の婦人が間違えられて被害を蒙った事件も起つて来たということです。兵隊は性的慾望を満足させるために、中野村内の婦女子を強姦した。このために中野村の一部では、婦女子を防禦するため、という口実の下に馬小屋を改造し、パンパンを置き、裏口営業をし出した。梨ヶ原の開拓団では、物置小屋にワラを敷いた寝室が出現し、パンパンはこの寝室でサービスをした。しかし性病の検診は励行されていず、開業医に一部の女性が検診を受けていたのみである。こういうふうに警戒が厳重なため、百姓寮にモンペを穿いて鉄を担いで、山の中で売淫をしている。兵隊はパンパンと素人娘の区別がつかず、呼びかけ、どの女でも要求に応じてくれるものだという錯覚を起した。だからこれは女が防波堤としてパンパンが役立っているのか、パンパンが来たために村の婦女子にも被害が及んで来たのかその点大きな問題になつてくると思うのですが、とにかくそういうことで、驚くべき事実があつたわけであり

四、昭和二十六年

それから二十六年になりますと、今度は部隊の指令が非常に緩やかな方針に出てきた。その部隊の司令官は、V、Dさへなければ兵隊の外出を自由に認める。と言つた。若し性病に罹らぬ用心をし、又諸種の違反がなければパンパンと遊んでも構わぬという態度を示したので、喜んだのは業者である。そこで業者が言ういわゆる自衛検診というわけで各地区には白百合会とか白百合会、鈴蘭会、スミレ会等の業者団体が結成された。みんな少女趣味があるのか、やつてゐることは若いんですが非常にきれいな名前をつける。

そういうわけで、司令官の方針に適應する娼寮の受入れ体制を組織的に造り上げて行つたことがわかります。そこで次にそういう山中の女の遊びの種類についてみますと、基地売春の営業方面からの分折になつてきますが、これが同じ山中湖畔でも、富士吉田とか船津と山中とかで、地域的に値段が違つてきます。便利な処は高く、不便な処は安いという原則が出てきてゐるのですが、ショート、タイムは、富士吉田では八百円から、千円、山中でも八百円から千円、大体同相場です。ところが山中から少し奥に入つた忍野村では、三百円から六百円です。それから梨ヶ原の開拓団では五百円。汚いバラック小屋ですから安くゐる。それからロング、タイムというのは大体一時間ですが富士吉田では千円から千五百円、山中は同じ値

段、忍野の場合は八百円から千円、設備が悪い梨ヶ原は六百円から千円、オールナイト これは富士吉田は二千円、山中が千五百円から二千円、忍野が千円から千五百円、開拓団のバラックでは、八百円から千円というふうになつてゐる。つまり収入はどうかというと、一ヶ月五千円から五万円程度と推定される。一畳約千円の見当で、六畳一間五千円は安いとしなければならぬ。一軒一万円から三万円くらい、最高五万円、農家が部屋を貸して収入を得てゐた時代もあつた。

この家賃、部屋代というのは、農家の主人がパンパンに直接に貸した場合と、ハウス業者に貸した場合とあるわけです。その場合、大体間代は一畳千円というのが基準になるわけです。農家ではそういうふうには、六畳一間一人の女に五千円で貸す。そうすると女はその部屋を借り、オンリーの場合はそこに住みついて、時々やつてくる特定の兵隊を迎える。ところがオンリーでない自由パンパン——街娼——の場合は、表に行つて兵隊を連れて来てその部屋で商売をする。これは日本人の街娼とちよつと違ふところです。日本人の街娼は自分の居住している部屋へはあまりお客を連れて来ない。例えば新宿の町に立つていて旭町の簡易旅館に引つ張り込むのがマブヤサと言う。それからシキと言つて、別に部屋を設けしてそこで商売して、居住と営業場所は分離してゐる。

ところがこの場合は自分の部屋へ連れて来て、そこで三人でも五人でも客を取つて商売する。しかし家主には部屋代五千円なら五千円払つていれいという仕組になつてゐる。

それからもう一つ部屋賃の形態があるんですが、この部屋賃はホテル式の経営になるわけです。一回いくらで部屋を貸す。一ヶ月契約でなく一回いくら、ショート、タイムが百五十円から二百円、オールナイトが五百円。つまりモグラの宿屋営業をやつてゐるわけです。この場合はこういう部屋は、休日には横派とか立川から縁起に来たパンパン達がこれを利用するわけです。ホテル代用です。この方が、回転率がよくて農家としては儲かるわけです。ですからどこへ行つても、パンパンが募集してゐる処に行くと、非常に便利な処はホテル式——普通の民家でありながら、ホテル式経営をやつてゐる。少し離れた処では一ヶ月いくらという経営でやつてゐるようです。今は、部屋代さへ払つておけば、収入は女のものになり搾取がないわけで、私はこのようなものを自由パンパンと言つてゐる。

ところが、非合制でやつてゐるのがあります。四分六、又は切半、これは完全な娼家経営で、これは業者が家を一軒借りて、そこに女を連れてきて働かせるという場合です。それから、農家の主人がビヤホールなんか店を出して、そこへ女を置いてパンパ

をさせる。そういう場合、この歩合制が取られ完全な娼家経営で、女が四分、主人が六分とり、女四分の中から金費を出すわけです。病気になるとその中から支払うので、余り実収入はなくなり、借金となつてゆく。組合費又は組合入会費も支払わねばならぬ。その状況を察し、病氣難患の者については、入院費、治療費の半額補助を当局の注意により実施した。内情はいかになつていようと、表面は下宿料とし、食費、部屋代しか貰わず、娼行行為は女の自由意志で関係がないということになつてゐる。何故ならは勸令九号に引つか掛るからで、ここに売春組織、売春企業、秘密と言いますが、中核が露出して来ているわけだ。今までのところ業者は部屋代、食費しか取つていない、娼婦は女が勝手に自由意志でやつてゐることだという説明形式をとつてきているわけですがこれは実態に反した説明です。とてもそんな一片の説明ではごまかしきれないようなひどい状態である。とにかくいわゆるパンパンハウスというところでは、歩合制四分、その中から食費を引かれて、大体三分くらいになるでしょう。それから酒物を買ひ、買ひ食いをして、いろいろなことをして病氣になつて費用を出すと、みんな借金になつて行く。借金に縛られて身動きが出来ないという状態になつてきているわけです。

五、昭和二十七年、現在

かくて、講和発効の年を迎えた昭和二十七年においても、米軍将兵に対する性的サービス機関が存続している。各組合とも商売の安全のために、検診方を懇請してきたが、従来の性病対策につき聊か疑義がある。その対策に保健所では固却してきゐる。又、山梨県では風俗保安条例も公布されたが、これに対し各地区市町村長は、地区指定の申請をしていない。

昭和二十七年六月十三日附で公布された山梨県の風俗保安条例は非常に巧く出来ていて、原則は作つた。しかしこれを適用するということは、申府なら、申府、山中なら山中村の村長の申請をまつ、申請があれば適用する、申請がなければ適用しないということだ。

折角条例は作つても棚上になつてゐる状態であつた。大体そういう経路を辿つて現在までに至つてゐるのですが、サンデー毎日の昭和二十七年八月三十一日附に「富士山麓の鳩の町……」という記事が出ていますが、いろいろ金をかけて娼家がビヤホールとかカフェーとかいう施設をどんどん作つたが、兵隊がバツタリ来なくなつて非常に狼狽してゐる。大体部落の半分くらいは部屋賃をしてゐたが、パンパンが減つて来た。ここに、暇なパンパンが山中湖で魚釣りをしている写真が出てゐるのですが、いかにも閑散を極めたことがわかる。金満時代、五百人から八百人くらい山中部落にいたのですが、その時三十人くらいしかいなかったということです。これは、兵隊の数の激減につれて消滅があるわけです。その時、おばさんの言ひ分がいいんです。キャバレーのおかみさんですが「兵隊が来なくなつたのは大体報道が悪いんです。ここだけを特別に取り上げて騒ぐから遠慮して来なくなつたんです。無理算段をしてやつてゐるのに兵隊が来なければどうにもなりません」と言つて、報道機関を非常に怒んでゐるわけです。

これと同じような経緯は前にもありました。私が、昭和二十六年の八月に始めて山中湖畔に行き、びつくりして山梨県の教育長に会つて教育対策を相談しようとした時も「風紀が紊れたところは他にもあるのにどうして山中湖畔だけ取り上げるのか、山梨県としては迷惑である」という意味合のことを言つて、苦情を言われましたが、教育長もキャバレーのおばさんも大体同じようなセリフを持つてゐるわけです。

こういう暇になつたパンパンはどうなるか。保安隊が今キャンブマゲネアに居る。これからいろいろな基地を演習地、保安隊の共同使用といふことが始つてきてゐます。パンパンは、刻み煙草を吸つてゐる保安隊なんかおかしくて相手にできないとタンカは切つてゐるが、これは見得であつて実際は相手になつてゐる。無断外出した三等警察士が二日間特飲街に流連をして減俸処分をくつたという事件があつた。そのために警戒は厳重になり、町には「保安」という腕章を巻いた隊員が三三、伍伍歩いて、不届者が出るのを見張つてゐる。去年の三月宮城タマヨさん、赤松常子さん等参議院議員の方が視察に行かれた時の報告書の最後のところに、中野村の有志の意見というのが出てゐますが、「米兵の外出を禁止するならば娼婦処刑の法案を制定することにも賛成するが、しからざる限り、中野村地元婦女女子が犠牲になることが考慮されるのでこれに賛成し難い」具体的な解決策としては「一定の地域を限り特殊区域として、この区域内における米軍相手の娼婦はこれを容認することが妥当と認める」ということであつた。これは、中野村有志と言ひましても、ここで参議院の議員さんに会つた人は中野村の村会議員、教育委員、区長、業界委員、カフェー業組合代表者等ですから、結局は赤線区域を作るといふ結論を示してゐるわけで、各基地を廻つても赤線区域を作るといふ声が相当高いわけだ。赤線区域に反対してゐるのは横須賀です。これは横須賀に、子供を守る会があつてそのメンバー、教育者や牧師や商人等が中心ですが、市当局が赤線区域を作つてみたら逆にパンパンがふえた、風紀が余計乱れるようになったという立場から批判してゐます。赤線区域を作つて儲けるのは一部の利権屋、ボスに過ぎない。女はますます搾取される。ということで反対論を唱えてゐるが、大体の傾向としては赤線区域を作つて隔離しようじやないかという結果においては娼婦業者の利益を保護するような動きが露骨に見られたのです。

最後に、中野村がどうしてそういうさんたんだる状態に陥つたかという点をのべると、もともとあまり豊かな村ではなく、中野

村全体で六八七戸あるんですが、その中で完全保有米農家は僅か六戸です。他はみな配給を受けている農家です。米がとれない処なんです。とうもろこしを常食にしていたところで、子供の弁当などもとうもろこしを持っています。同じ人夫に出ても、中野村のは弁当がとうもろこしだからエネルギーが少いというので、人夫賃が二割くらい安いという食しい処です。山中湖でワカサギとか川魚がとれていたが、やはり基地が出来て兵隊がボートやヨットなどで、網を切ったり餌がしく、汚い水が流れ込んだりして川魚もとれなくなつた。それから山林を接収されて、県有林ですが、今まで自由に炭焼をしたり、薪がとれていたのが不可能になつた。極く僅かな耕地の中、六十町歩：ほとんど全部立入禁止になつてしまつた。とくに開拓団において甚しい。そういう現金収入を失つたところから、結局山中部落の五〇％はパンパンに部屋賃をして、開拓団の九〇％が部屋賃をして、全く潰滅状態に陥つたわけです。

だから、米兵相手の荒療で村中がうるおつていた時代は、校長やT、Aの会長が教育上困るといつても耳をかさない。そんなに學校が大事なら、學校ごとどこかへいつてくれ」と、ボスにおどかされたという話でした。

米兵の減少とともに不景氣がやつてきた、その後の動きを見ていますと、開拓団は、全部接収してくれという申請をしている。たいていのところでは接収反対という出方で掛け合うわけですが、ここだけは逆に、接収してくれ、買収費をたくさんもらつてどこかに引越して行くというかけ会をして、最近一部が移住を始めている。こういう処はとてもたまらないというわけで移住を始めています。

この富士山麓の状況は「富士山麓」という芝居になつて、早稲田の学生が芝居にして上演しています。私はまだ見る機会がないのですが、開拓団のそういう非劇を描写しています。それから村民はどうなつたかと言いますと、ついでの間——去年の何月ですか——山梨県の中野村を東京都へ編入してくれという申入れがあつた。東京都の役人はびっくりして、こういうことはとても真面目な掛合とは思えないというわけで却下したが、結局米軍に依存してうまい汁を吸つていたアメリカの兵隊が演習その他の都合で足が遠くなつた、食えなくなつた今度は、東京都へぶら下ろうというわけで、結局村民の氣持が非常に依存的になる。寄生虫になつて、何かに頼らなければ生きて行けないという悲しい姿が露出されてきているわけです。東京都が断つたので、今度はアメリカ合衆國に編入してくれという申入れをするかも知れませんが

六 結 び

結局基地荒療について一通りお話ししましたが、基地荒療に関しては米軍が無関係どころか大いに関係がある。基地風景はキャンプの中に源があるという点を私は強調したい。同時に基地荒療の底には、米軍の進駐によつて土地を奪われた農民の悲劇、しかも指導者が非常に病的な指導者で、指導者が悪いために依存主義が萌生し、生計道徳の腐敗、崩壊のありさまたる状況に立至つていゝ。その基盤の土壌に、深い悲劇荒療が育たれているというところを申し上げたいと思ひます。

基地売春の状況

木更津

式場 隆三郎

一、街の概況

千葉県木更津に行き、夕方五時頃から夜にかけて、この県第一といわれる特殊地域について、いろいろ見たりに会つたりして、一晩泊つて帰つてきました。現在、千葉県では各所に基地があり、いわゆるパンパンと称するものがたくさんあります。そのうち木更津には千葉県の八割がいていわれていますが、大体数をきいてみると、ハウスと称する公娼と店を張つていゝものが四十人、オンリーという一人ずつアメリカの兵隊と暮らしているか、あるいは一応部屋を借りて住んでいる女が三百人というところです。このハウスの四十人が、大体八軒くらいに分れていて、非常に数は少ない。十人という家が一番多く、あとは二人、三人、四人くらいに分れている。オンリーと称するものは実数はわからず、いままで千人いた兵隊にたいしておよそ三百人というものが、保健所や警察その他の推定です。今は兵隊が減つて大抵五百人くらいしかおられないらしいがオンリーの数は減つていないという見通しです。正確な調査ができないのは、ハウスと称するいわゆるパンパン屋——公娼とやつていゝところは検診を二週三回やつており、数も届けてあるのでわかりますが、その他のオンリーは全然調べる方法がないらしい。ちよもふあふと称するものも全然配給は受けておらず、現金も一文も納めてないので、正確な数はわからないが、大体店主が市役所と連絡したりしているからほど見当がつきます。ところがオンリーの方は、近所の噂を聞き、あそこにいる、こゝにいるというふうにして推定したもので、三百人という数は多きに過ぎるかもしれません。

さて、私はまず保健所に行きそこで所長と性病課の主任から、ハウスの中における状況を知り、それから業者が集つてもらつて一人ずつ質問し、そのあとで現地を見て廻つたのです。数が非常に少ないので、正確なデータにはならなかつたけれども、一端は掴むことができました。

業者のいうところによると千葉県の中でも木更津が町全体が一番平穩でトラブルも少ないし、病氣も少ない、理想的ですと自慢し

ていた。悪いところはどこかといったら、今度、威嚇射撃で問題になつていゝトリウミの辺は状態が悪い。それから東京の近くでは立川が一番悪い、立川から逃げて、こゝへきた者の話をきいても、こゝがいいと喜んでゐる、ということと業者はいつてゐるわけです。保健所にいわせると、性病は比較的少く、検診も順次与えていゝので、性病の点はうまいつてゐるが、オホボンは騒動者が相当いるということです。しかし現在は、ハウスと称されている中にはヒロポン中毒者は少ない。なぜかというところ、ヒロポンをやつていゝと、どうしても性格がおかしくなりうまいかなくなる。つまり醜態を妨けるので、そういうものは出してしまうらしい。アメリカの兵隊でヒロポンの中毒者はいゝかときくと、少しいるということです。これは、日本のヒロポンをやつてゐる女から教えられたので、向うから教えるということはないようです。

前にオンリーの数は三百人といひましたが、まだそのほかに少しゐるんです。これがオンリーでもない、ハウスにゐるのでもなく、バラバラにゐる。これはかくれてやつてゐるので、職場はほんとうの飲食店もしく、数はわかつてゐません。前にいつた四十人と三百人という数は、アメリカ人だけを相手にしてゐるので、日本人は全然相手にしない。ところがそのほかへちらばつてゐる飲屋、レストランでは、ある時は日本人を相手とし、ある時はアメリカ人を相手としてゐる女があるらしいのですが、この数がハッキリわからない。表面が飲食店なので、検診もできないが、明かにゐることはゐる。街にはいゝかというところ、ほとんどないという話です。それは、夜、街を歩いてみてもほとんどない。早く寝るかどうかはわからないが、町の状況は静かで、ブラブラと歩いてゐる人は少ない。ただ、川べりなどにあるアメリカ専門の家は、相当賑やかにやつてゐます。その様相を見ますと、一軒は非常に洋風のキヤバレー式で、あとは、純日本式のもので、全部盛であり、普通のしもたや風の家です。その一軒だけの洋風の家が、いかにもパンパン宿らしいものでした。見てゐるとそこにアメリカ人が入つてくる。MPが巡回してゐたり、なかには、MPも客になつて上つてゐる様子を見ましたが、その八軒くらいの、公然とやつてゐるアメリカ相手の家というものは、ある意味からいへば警察も認めてゐる。公然と、日本の背の逆逆然としたもので、こゝに女は住んでゐるわけです。

二、売春婦について

オンリーの方はたずねることもできませんし、様子は聞くだけにとどめましたが、いまの八軒の四十人の中の二十人くらいには個人面接をして、いろいろな話を聞こうとしてみました。ところがこういう人達はなかなか話をしないので、いくち質問して

も十分な答は得られない。十分満足しているか、不満であるか、今後に希望を持つているか、こういう仕事を積み重ねてゆくかというところも、いろいろ質問したが明快な返事をする女はない。大体、いまの状況でどうにもならんというような日ぶりの女が多く、更生してなにかやろうとか、今後どうしようというハッキリした答えを答えず、意見を述べたものはいませんでした。大部分は、いまの状態で甘んずるといふか、大した不平もなくいる。経済状況をいろいろきいてみたが、前借というものは、ハウスと称するものにはほとんどないようです。前借なしに入つて、稼いで、その金で自分の部屋代、食費を払うというやり方で、中には貯金しているのがある。あるマダムの話を聞くと、約二十万円貯金している女がいるというような話を聞いていましたが、ほんとうに貯金しているのか、そう称しているのかはわかりませんでした。とにかく大部分が貯金をしたり、あるいは仕送りをしていて、金はあまり浪費しない状態です。中には非常な浪費をして、そこから金を借りている連中も少しはあるようですが、大体われわれの想像するほどひどく借金して身動きのできない状態ではないというふうに見受けられました。

それから前借をきこうとしましたが、過去は決して話さない。どこに居たかということも大体いわぬのが常識のようです。生れもなかなかいいません。東京から来たとか、千葉県です、というのが僅かいる程度で、名前もほんとうかうそかわらない。配給はもちろんないから、通帳はもつてないといふことで、身許のわかる人というのは非常に少い。それから仕送りの興休について経営者に聞いてみたが、送つてゐる人は少しはいるらしい。ことに、千葉県から来たという女は、うちから金をもらひにきたり、持つて行つたりで、家族との交渉が比較的多い。東京の女でも子供があつて仕送りしているらしいといふものもあつて、とにかく現金を持つてゐるような様子はないといつています。

彼女らが、いつたい今後なにを望んでいるかということも、いままでの経歴を話さないと同じような理由でなかなか掴みにくい。あるものは、集团的でなく一人ずつ呼んでもらつて、私と二人きりで寛いできこうとしたのですが、なかなか本当のことはいわない。

われわれ医学者にいわせれば、だいたいいままで日本の遊廓などに辛抱してゐる女というのは低能がかなり多く、精神医学の立場からいふと、精神薄弱の軽い程度がかなりあつたものですが、今度の場合果してそういうものか、どんなふうかと思つて見ましたところが、それはあんまりない。それから趣味とか教養の程度ですが、いまの新制高校を途中ぐらゐでやめたのが最高で、教育程度は全体として低いようです。読書とか教養の程度をきいてみますと、なにしろそういう時間をほとんどもつていない。

い、婦人雑誌、映画雑誌をみる程度であまりラジオもきいてない。ダンスする時にレコードぐらゐかけるといふことで、音楽に対する興味はあるかと思つてきいてみると、非常に好きだとか、特に趣味のあるようなものはみませんでした。

次に休暇の問題ですが、大体ハッキリしてない。毎週休ませるところはほとんどなく、月に一回、丁度女中の休み程度で、臨時休暇という名で休むものもあるし休まぬものもあるといふようで、きまりがない。儲蓄関係もまた判然としてない。儲い主といふか、間代を取つてゐる人達と働いてゐる連中の関係は実に不可思議な状況で、ほんとうの傭人でもないし、協同者でもない、実に奇妙な状態の中で暮らしている。だから、その女が金をちゃんと払わなければいつでも追い出されるし、金さえ払えば実に簡単な結びつきで一語に暮らしているといふことになりました。

将来に希望をもつてゐるかといふと、先程いつたように、ほとんど話さない。アメリカ人に対する好意についてはどうかといふと、決して嫌つてゐない。日本の男よりは親切だといふ。じやあ将来日本の男とは結婚する気はなく、アメリカ人と結婚したいかといふと、それほどの熱意も理想ももつてない。とにかく今あるがままに、非常にイージーな気持ちで暮らしているといふのが私の見たところの大部分のようでした。今の状況に対して不満をもち、こんなことでは困るから金を蓄めてやめたいといふことを話したのは一人もありませんでした。結婚したいのか、ときいても、できたら結婚したい、日本人かアメリカ人かといふと、日本人のほうがいいだろう、アメリカ人はなかなか結婚してくれないだろうといふくらいで、確たる希望をもたない。そうした暗い気持ちの底には、自分達がどういふ世界に入つたら、将来は普通の結婚生活はできないだろうといふ諦めもあるようです。

それから儲い主に対して、なにか積極的な指導——娯楽設備にしるあるいは教養にしる、なにかやつてゐるのかと聞いたが、これはまちなちで、なかでは花を教えたり、お茶や裁縫を習わせてやつたりするところもあるが、大部分は、とりたてていろいろの積極的なことはやつていない。じやまもしないが、こちらからすすめてやらせるといふこともないようです。

慰安の問題にしても、あるところでは、春と秋に遠足に連れて行くくらいのことではあるらしいが、普通の会社のように、慰労休暇でどこそこに行くというような組織だつたことはやつていないようです。

つぎに、アメリカ人との関係ですが、だいたい女同志が処遇して、失態したり、好きな男がアメリカに連れて帰つたり、ある

いは、もう少し待てといつたり、いろいろあるらしいが、ほとんど借主とは無関係で、個人でやつている。中には、インディーズのヤダムがおつて、英語の手紙を書いてやるとかいつていました。アメリカの雑誌などをパラパラくつて見せたりして、私はただのヤダムでない、というところを示していましたが、とくに女をどうしてやるかというのでなく、自分の生活のためにやつているというだけの話で、特別な考えを持つてゐる人はほとんど見当らない。所得税も納めませんし、盛業者が納めるだけで、当人は知らん顔、いくら稼いでいるか全然わからないので、市役所でも問題にしないらしい。推定では、高いので一万五千円くらい、あとは一万円以下で、部屋代を五千円くらい取られる。オンリーの方もこれより少くとも多いことはない。長細きものし、仕送りなどでほとんどなくなる。積極的に金を稼ごうという女はハウスに飛びこんで、そこでどんどん稼いで仕送つたり贅沢したりしようという考え方で、オンリーの方は大したことはないのだというのが当局の見方ですが、あるいはそうかも知れません。オンリーからハウスのほうに移つたり、またオンリーに行くのもあり、というような交流はあるらしいが、大体ハウスの数は四十人から五十人という。つまりハウスと称する店を開いたところにいる女の数は、いつもユースタントらしい。どうして来るのかときいてみますと、友達をたよつてきた、噂をきいてきた、東京を食いつめた、というのがいつの間にかくるので、木更津の人達にいませますと、この土地はそうした地帯としては比較的好いところとして認められてゐるので、ここに来た人は割合長続きする。出入りが比較的少ないと強調してゐました。

健康状態については、さきに性病のことを話しましたが、これは嚴重な検査を受けているのであまり心配はない、それ以外の病氣、たとへば結核などというような病氣はあまりしないと業者は盛んにいう。みんな、榮養がいいからとらんなさいということ、なるほど見ますと、身体は比較的いい。今までの玉の井などの不健康をうなはねて、比較的丈夫そうなのがいるということも見てとれました。しかしこれは木更津だけの現象ではなく、現在日本における各地の売笑婦の姿を見ますと、昔の売笑婦たちは、いわゆる小さな家に囲まれて、女の姿は顔だけ見えるか、チラツと見えるか、ともかく部分的にしか見せないか、戦後の姿はそういうものでなく、町に出てきて全体が見える。服装は和服を着ている女は少く、大部分が洋服です。冬の寒い時でも薄着をしているから身体がいい子でないと売れないということ、昔よりは身体が均整のとれた子でないと売れ口が悪いのではないか、榮養が悪い人などは到底動かないので、もつと程度の悪いところへ置ちて行くのじやないかとみられる。四十人くらいの僅かな数からいつて大体その中八割くらい見ましたが、なるほど病氣らしい、結核のようなのはありませんでした。精

神病院としてのわれわれの立場から、頭が非常におかしいという病的な女も見当らなかつた。しかし、後で考えましたけれども、東京界の、八割いるという数に達して飛んで行つたのですが、どうも木更津をえらんだのは、適当じやなかつたのではないかと、あすとは数だけでもオンリーも大部分で公然といる女の数は案外少いので、むしろほんとうの姿は、町にいたり、客にしても日本人とアメリカ人とをこつちやませにしているのが多いのではないかと思ひました。

三、周囲の関心状況

役所として、店面側をみてやつてゐるのは保健所ですが、ここにしても、現在の立場や予算その他の事情から特別な熱を持つてやるというわけにもゆかないらしいのです。とにかくまず性病を予防する、病氣を出さないようにという立場から検診をやつてゐるという態度でがまんしなければならぬ。これは当事者としてもまことに不満足と思ひます。ことに、性病課長という人が、「われわれの立場からも、さらに飛躍を期待したいところです」と言つてゐました。

そういうことのために町会に及ぼした風教問題はどうかという。この町の人は無関心で、早くそういうものをやめてくれとか、あるいは、そういうものが子供に及ぼす影響が非常に甚大だからどうしてくれという要求もしないらしい。私は、小学校の子供にどのくらい影響を及ぼしたかと聞いてみましたが、小学校の便所にヒロポンのアンブレが落ちてゐるから、小学校の上级の子供はヒロポンをやつてゐるのじやないかという疑はもてる。もつとも、ヒロポン患者は、ハウス以外のものの数が多いので、調査する方法がないらしい。

丁度、私が行つたとき「赤線基地」という映画がかかつてゐましたが、「あれはどう思ふか」と先ず女達にきいてみると、「私たちはああいうふうじやない。ほんとうの姿を偽えてない」ということを盛んに強調する。簡い主連中に批評をきいてみて、「少し行き過ぎで、あんな姿でなく、われわれのやつてゐるのは違う」といつておりました。それで全然違つた角度から、宿屋の女中とか店屋に行つて、「あなたの町でこんな映画がかかつてゐるがどうですか」ときいたら、実に無関心で、さつぱりそういうことに対して反響する氣持もなければ肯定する氣持もない。「ともかくこの町にもそういうのがいますね」という程度で、無関心に暮してゐる。「小さい町にアメリカ人が、渡つたといつても五百人もいますが、こういうことのためにどうだ」というと、「いや何ともありません」という。「アメリカ人のために商売繁昌するか」というと、「あの人は人達に倅で、浪費しない」

という。「とういうところに来てたくさん金を使つてくれない」という。もつともヘウスと称する連中も「アメリカさんは食料はみんな持つて来るので、女以外はみんな手持ちで、酒や料理で働けることは少い」という。とにかく、それほど町に金が落ちるわけでもないのですが、外国兵と女というような問題で摩擦する気持はない。そんなわけで私としては、まことに期待外れなつたという結論だけで、あまりいい報告はできませんでした。

売春とヒロポン

亮春について、特に調査したのではなく主としてヒロポンと、若い世代の人との関係を調べました。それから少年の非行とどういう関係があるかということ。又年少労働者とヒロポンの関係等、約半年ほど各地を廻つて調べたが、しばらくヒロポンの問題から遠ざかつていたものですから資料が少しくなっております。その中から出来るだけ亮春関係と年少問題に関連のあるようなことを報告したいと思ひます。本題の答としては少し離れている面があるかもしれませんが、その点は御諒解願ひたいと思ひます。

「ヒロポン等について

最初にヒロボンとはどういうものかということを申しあげます。よくヒロボンを麻薬と同じように考えているが、麻薬というのは御承知のように「モルヒネ」と「コカイン」と呼ばれているもので、ケシやコカ葉等の植物から抽出せられて、それぞれが麻薬ではなかつた。むしろ鎮痛剤です。そこにいいますとヒロボンは鎮痛剤で化学製剤です。昔鎮痛剤には種類が二つあり、一つは鎮痛剤「エミール」アミノプロペンと云ふものとフェニル、メチルプロペンというのがある。アミノプロペンが、武田製薬から売り出されたのがゼドリンという商品名のもので、アコチンという名で売り出されたものもある。アメリカにもベンゼドリンというのがありますが、これはアミノプロペン的一种です。メチルプロペンのはうが商品として売り出されたのがヒロボンでこれは日本製薬の商品名です。最近、麻薬と同じ効果があると宣伝されている。オートンという名の化学薬品が九州、北海道に拡がつて、この薬物中毒による発狂者がでている。これらの薬はセックスや精神状態に作用があるのだが、こういう薬を製薬会社が経営不振のときに売り出すと必ずもうかるといわれています。オートンは三十円で、大阪の富田の遊廓に行きますと「トンなくれ」といえば一本五〇円で客にわたされる。

この間、北海道の精神病關係をやつてゐる某氏の話ではオートン中毒による精神病患者が四十人くらいいてゐるというが警察では、麻薬患者が禁断症状をあらわしたときオートンを打つとなおつたとのことでありませう。薬の効能書を見せてもらひました。が、モルヒネと同等の価値のある薬と書いてある。

害者が出てきてから厚生省でも考えるということで、事前にやる考えはなさそうです。

二 ヒロポン 使用者たち

話を前に戻してそれでは日本で覚醒剤ヒロポンはいつ頃から始つたのかと言いますと、これは昭和十年頃より作られていたのを日本に輸入したものだといわれているが、日本では昭和十六年に、日本製薬、武田製薬が製造して主として陸海軍の夜間航海の場合に搭乗者にのませるといふことで使用したわけです。戦争が終つて、ストック品がたぐさんあつたが、それが市中に氾濫し始めて最初は芸能人とか文士など比較的インテリ層の間に流行していた。それがボツボツ高等学校の生徒や少年工などに蔓延するという現象が出て来たのと、製薬会社が不正なことをやつて相当な数量を横流ししていたということで、参議院の厚生委員会が昭和二十六年三月に取り上げ六月三日に、覚醒剤取締り法というきびしい法律ができた。この法律によつて、日本製薬、武田製薬、この二つの会社以外はすべて製造できない。又製造したものも厚生省の定めた精神病院とか研究所以外には使つてはいけな。したがつて一般の薬局は絶対に扱うことはできないし、普通の人も所持しているというだけでも罰せられる。譲渡、譲り受けもいけなというきびしい、麻薬と同じくらい強い禁止法令が出た。ここで非常に面白いと思ふのは、覚醒剤の取締り法という法律が出る以前には芸能人、文士の間に数発的に起つていたのが、法律が出てからは集団的に、しかも数がふえたということです。つまり、法律というものは本来そういう弊害を予想して、それを防止するのが建前でありすが、覚醒剤に関しては、取締り法が出来てからむしろ後のほうが、集団的に発生し、全国的に広まつたので、むしろ法律の出なかつた時の方がまだよかつたという結果がでてゐる。これは密造についてもそうで、それが朝鮮人部落で行われるということとはよくいわれ、事実そうですが、ドロクダの密造からヒロポンの密造に転換したのも、酒が安くなつたことにもよりますが、一つは法律が出たことによります。ヒロポン患者は相当ふえて行くのに反し、法律が出たために供給面がないから、朝鮮人部落はヒロポンの密造と密売によつて生計が成り立つということになつてきた。その証拠に、日本製薬、武田製薬にいつてストックを調べたところ日本製薬が、ヒロポンの注射液のいままでの正規の需要実績、精神病院とか研究所でほしいといつた場合出していた、過去五年間の実績から見ても、いまのストックが何年分かつという注射液に関しては五十分、原料は二百八十五年分ある。錠剤が百二十五年分あります。そのくらいに正規の会社ではストックがあつて、却つて困つてゐる。つまり医療機関等ではヒロポンをあまり使わない。これは医学上では、大して必要なものではないように思はれてゐないのじやないかと思ふ。そんな状態でして、現

在密売されているヒロポンはみんな密造されたものであると思ひます。もう一つそれを裏付けるものとしては、大阪にアンプルの組合がある。全国のアンプル製造量の中、大阪のこの組合の製造量が六〇%を占めてゐます。この組合のアンプル製造量は、月に三千万本くらいです。アンプルの納入先を調べて見ますと、製薬会社等が二千万本、あとの一千万本はわからない。この一千万本が毎月、闇に流れてヒロポン製造に使われていると思はれる。密造の問題はその程度にしておきまして、中毒の症状については問題はこれを使用する人間、つまり中毒にかゝつた人の状態をそれから、これを販売する方法と販売者の状態更にそれ等を造る密造者関係がどうなつてゐるか。つまり中毒者と密売者と密造者のこの三者の実際から調べてみる必要があります。そこで先ず、中毒者の問題が一番関心があるかと思ひますから先に申し上げますが、大体、あれを使用する人間の年齢は十七才から十八才、この辺が一つのピークになつてゐて、又二十二才から二十五才がピークになつてゐる。数から言ふと、二十から二十五才までの青年が多いが、少年の場合はやつぱり十七、八、丁度高等学校に行つてゐるくらいの生徒が多いということです。これは、法律の出る直前に調べたのをこの間見たが、大阪警視庁でヒロポン費用による非行少年、不良少年を調べたものによると、十四才から二十才までの年齢で大体男子のほうはどういう職業の人が多いかという昭和二十六年一つまり法律施行ですから、法律的圧力がかかつてない、その当時には工員が第一位、その次が学徒、高等学校中学校、それから小学生が少しそれから大学生が少しある。つまり学生、生徒、児童、と称せられるものが二番目。第三番目が、日傭労働者、ニコヨンと称するもので、四番目が店員です。女子の場合はどうかと言いますと、やはり工員ですが、その次に店員というのが出てきてゐる。大阪の店員の中で女子に相当ヒロポンが流行してゐた。三番目は風俗営業、赤線、青線区域、あるいは飲食店に關係する女性、これは男子に比較しますと男子の二倍で、風俗営業に關する限りは女子のほうに男子よりも数が多い。これは二十六年の二月現在の調査でした。そこで、取締りの法律が出た後においてどういふふうな状態かと申しますと、やはり順位はそう変らぬと思ふが、とくに顯著に現われてゐるのは、高校生の間に重点的に発生してゐる。東京にも渋谷に、それで有名になつた高等学校があります。それから宇都宮で、宇都宮には六つ高等学校があるが、各学校に五十人から百人くらい出ておりました。これを調べてみたが覚醒剤を使う高校生は、町の人間が周辺の農村の間かというところ、もちろん両方あるけれども、大体汽車、電車、バスで通學している青年が多く使用してゐる。市の周辺の、農家の子供が多かつたようです。汽車とかバスに乗る待合場で手に入れて、汽車の中の便所とか学校の便所等、ことに宇都宮では市内のヒロポン常用者の中に市会議員の子供が一名おりました。それから、中

学校の校長の息子、それから少年院の庶務課長の息子がヒロポンの中継者になつてゐる。それから、お医者の子がいろいろある。そういう風に、かなり有識者の家庭の子供がヒロポンを常用している。

次に、夜間の労働者、肉体労働の世界に使用者が多いのは統計にも出てゐる。夜釣りに出たりするその疲弊を回復させるためとか、なにかで紛れさせないというわけだ。

三 売春とヒロポン

次に売春との関係ですが、これは実はあまりよく調べてゐないので申し上げられないのですが、ちよつと特徴があるのは、戦後の不良少年の間に最初に流行したのはイレズミで、それが崩れヒロポンになつたことです。以前はイレズミをしないと、自分が不良であるという意志表示ができなかつたのだが、現在はヒロポンがそれに代つた。イレズミとヒロポンの関係を見ますと、ヒロポンを打つてゐる人間の大半は以前にはイレズミをした経験がある。ですから、そういうことから、イレズミとヒロポンと非常に関連があるということが数字の上では出たのです。売春婦は大抵売春行為以前に大抵不良仲間に入つて居りますから、ヒロポンの経験者が多いのではないかと想像されます。売春との関係については標榜の女子学園を調べたのですが、この標榜の女子学園は、東京の愛光とか他の女子学園の中でも最も悪質な人間が收容されて居る。つまり、悪質な犯罪を犯して、性質も悪質であるという人達、そういうような女子犯罪者としては著にも稀にもかからないというものが入つてゐるところですが、ここで、熱心に婦人の方で指導してゐる人が一人おりましたが、その人に調査を依頼してやつていただいたところが、三十九歳の中その名で、夜の女です。年令は高いほうで十八才、十九才という年令層です。例として東京温泉のレジスターをやつてゐたのがヒロポン中毒になつて詐欺と恐喝をやつた。ヒロポンは渋谷ハチ公の前でポンを売つてゐる女から始めて入手したといつておられますが、これはアチにならぬので、大抵は不良仲間に入つてから、仲間から教えられてゐます。しかし、少年院に入りますと相当長い期間入りますから、ハウスなんかではなかなか言ひませんけれども、三ヶ月以上もここに入れれば何でも正直に話すと、いう心境になりますので、この標榜の女子学園に入つて来たものは、結構な悪質で、浅草山谷にいたという夜の女が多かつた。両親関係では收容所の性質からも捕つた両親のない少女の多いのは当然ですが、それだから両親のない人が犯罪が多いといふことは言えるかどうか、問題と思ひますが、お父さんだけ、というのが案外多い。父だけが実父であつて、あとは継母であるといふのが

案外多い。これは日本のいまの家族の問題などから考えても相当研究の余地があると思ひます。これは、男の場合も調べたのがありますが、父親はいるが、継母の場合が非行少年に多い。これは家庭内の父の態度が、少年の非行に大いに関係があることを教えてゐると思はれます。これは特に十七、八の年令層には言えることです。

四 不正販売

話がとびとびになりましたが、次に、不正な販売はどういう人達がやつてゐるかというところ、朝鮮人が約七割です。場所としては、汽車とかバスの待合、映画館の中、パチンコ屋、飲み屋、こういうところが大体販売の場所になつてゐるようです。隠語があつて「ヒロポンあるか」と言うのでなく「ヒロ子さんいるか」、たくさんある場合は、「友達がたくさんいますよ」という、そういうような隠語ができてゐるわけです。

販売者にいつたいどのくらいの収入があるかというところ、一〇〇というのが大体一本三円くらい。これがブローカーに渡ると五円から七円になる。そして最終者が十円になる。最近は一〇〇とか五〇〇という大きなのが出た。そうしますと、いま言つたように一人が一日に五十本ぐらゐは使うわけです。最高、調べたものでは一日に三百五十本打つたものがいました。大体五十本ぐらゐは普通要るわけです。そうしますと、四、五人中継者を相手に持つてゐますと月に二万円ぐらゐもうかる。そうして、中継者になりますと、他から手に入りませんからその人を追つかけて廻す。だから自分の居る居るのに映画館とか盛り場を徘徊したり、不良同志話をしてゐるのを聞いて誘惑する。最近販売者に農村の婦人が使われてゐる。もとは米のかつど屋をやつてゐた女性がそういう職業に転換してゐるというのが多い。販売方法のうち一つは、薬局の横流れというのがあります。薬局が横流しをするのが相当あるが、これがなかなか掴めない、厚生省の話では、「全国三件くらいしかない」といつてゐるが例え、少年院に入つてゐる少年に聞いてみますと、かなり薬局から買つてゐるわけです。それが、割合規模の大きい薬局が却つて多い。しかし、なかなか証拠を掴まれないようにしてゐる。あの薬局で買つたというので、親が密告して調べても、その前に連絡がつくように手配してあるらしくないと言ふ。私のところにも投書が来まして、警察がやつてくれたが、調べたときはもうなかつた、ということとで、結局がこういうものを内緒で使わしてゐるという点が考えられる。薬局では顔見知りの人でやせ薬や、疲労回復剤にほしいと

まわれるとつい売りとなくなることあるのではなからうか。週刊調子が、いつか、警察病院のある医者の言として、ヒロポンはやせ薬に似ている。中年の婦人が太つた場合に、ヒロポンを打つとやせるということをしたため、ひと頃、非常に薬屋に買いにきたという。厚生省のほうで仕末書を編集者から取つたというが、警察病院のお医者さんが医学上の見地で言つたのかもしれないが、中毒症状による被害について語らなかつたために有力な機関にそういうことを出したので、非常にヒロポンは効くという印象を与えたことがある。

五、密造者

次に密造者の問題ですが、密造というのは、知識として中二つをばらぐがいいと思います。ヒロポンというのは、エフェドリンという薬から造る。エフェドリンは御承知のようにぜん息の薬で、日本でも有名な薬学博士が発明したというので、日本の三大医薬発明の一つになつていて、タカシススチーゼなどと共に名譽のある薬になつていて、それが最近ヒロポンの原料として再び名譽をあげているのですが、そのエフェドリンはぜん息に効く薬で、風邪薬には必ず少量入つていて、お医者に聞けばエフェドリンは絶対に必要な薬だそうなんです。この薬を薬局から買つて来て蒸溜水で薄めて塩を入れると化学的に分離作用を起してすぐヒロポンになる。エフェドリンさへ手に入れば、ヒロポンにするのは四畳半ぐらいの部屋で簡単にできる。ひどいのは海水を入れて、あとはアンブールの先をローソクで焼いてつめて売出す。だから、製造工程は簡単ですから、朝鮮人部落などで簡単にやれるということになる。資本金も四、五万円もあれば何十倍という商売ができる。そこでエフェドリンが問題になつてきた。エフェドリンはパキスタン等からくる麻黄という植物からとるのです。これを分析してエフェドリンを造るのにその製造工程に二つあるのですが、いずれの方法にせよエフェドリンを造るには、製造工程が機械で相当の設備と技術が必要である。ですから大体ヒロポンの密造はエフェドリンを買つてきて、アンブールにつめるという仕事をやつていて、それが金儲けの出廻つていて、わけでありませう。大阪でエフェドリンをつくることから始めたヒロポンの密造が一件ありましたけれども、これは、関西の某大学の医学部の助手をやつた人と薬剤師が二人か三人入つた会社がやつていたもので、それとつながり、他にも関東の某大学の薬学を出たのがやつぱり関係してエフェドリンからヒロポンまで造るものをつつて、池袋で最近挙げられた例があります。しかし、いずれも珍しい例で、エフェドリンまで造るのは簡単に一般の密造ではできない。しかしいまヒロポンがそれだけ需要があれば、したがってエフェドリンも需要が多いわけです。エフェドリンの数が相当ふえているのです。ごく最近に制限されましたが、輸入

業者がエフェドリンをアメリカから輸入する許可を得るために厚生省を通じて通産省に殺到したことがある。日本にそんなにぜんとく患者が居ると思えないのです。エフェドリンが製薬会社で風邪の薬になつていて、よく考えれば、よく考えれば、どこから抜けてヒロポンの原料になつていて、これが想像できる。それを裏付けるものとして考えられるのは、昭和二十七年十二月から二十八年七月までの間に密輸入者の手で、香港から、エフェドリンが非常に密輸されている。それはそれだけ需要があるからで、神戸では桶の中に、二七〇キログラム、エフェドリンが入つていたので、挙げられて居り、羽田空港でも、エフェドリン二九〇キログラムが、飛行便の中に入つてた事例があります。

そういうふうに、二十七年、二十八年にかけて、麻薬がやかましくなつたので、エフェドリンがどんどん入つてきている。それだけ日本に需要者が多いと理解できるわけです。それでは厚生省ではエフェドリンについてはどういう処置をしているかというところ、劇薬として指定していますが、薬局で簡単に入手でき名前と住所さへ書いてハンコを押せばエフェドリンは買えるわけです。ですから資本のない人間でも、薬屋を十五、六軒廻つて、買い集めるわけです。それを家に持つて帰つて、四畳半の部屋でアンブールにつめると相当な数になる。それを売りに出すわけですから、儲けとしては早いし、安い資本でできるというので、なかなか根絶ということは困難な状態にあるようです。

六、ヒロポン患者

精神病院のほうは、ヒロポンの患者はどこでも嫌われていて、病床が到底足りないというのでほとんど断わられている。平生はなんでもないが、非常に狂暴性があつて、ものをこわす、理屈を言う、食べるものは一人前以上に食べるといふようなわけで、嫌われている。だからヒロポン患者が中絶になつた場合に、病院に入れようとしても困難な状態にあつてこれも対策上の一つの問題になつています。本論からは大分離れた報告になりましたが、ヒロポン中毒のもたらした問題の所在について概略を申し上げた次第です。

性病からみた売春

高橋 明

性病から見た売春について次の順序で御話致したいと思います。

- 一、性病の概念
- 二、性病の蔓延状況
- 三、性病の感染源
- 四、売春婦の性病
- 五、特飲物の探訪

売春婦は性病をいかに考えているか
彼女等はいかに処置されているか

六、その他とほれ話

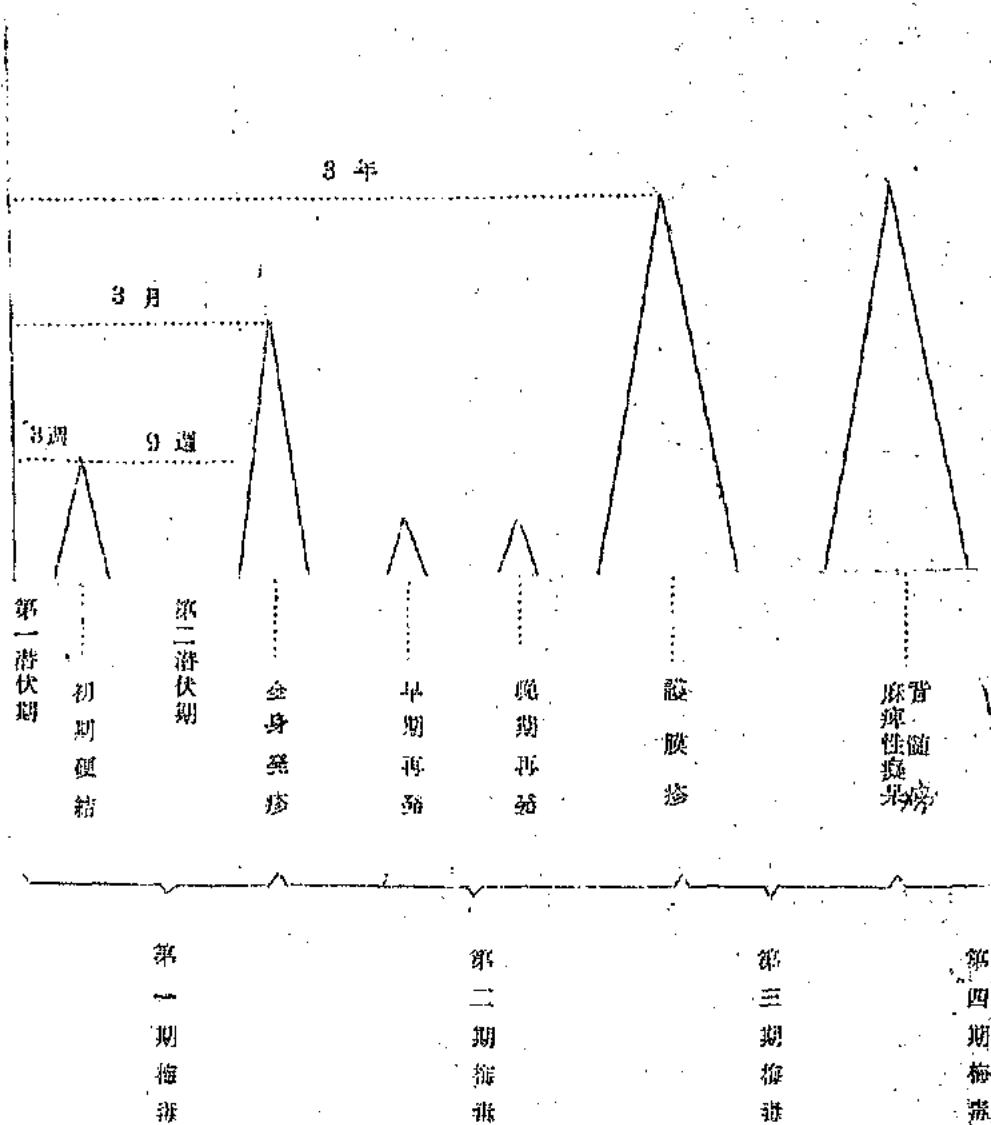
昨年十一月十三日の会の際に、性病から見た売春という問題を研究するようにということであつたのですが、その当時、大いに張り切つて研究しようと思つたがなかなかそまてゆきませんでした。今日申上げるとも皆御承知のことばなりと思ひますが其は要からず。

一、性病の概念

皆さんも既に御承知とは存じますが、売春婦の性病のことを御話する時に色々の病名や病的症状が出て来ますので、先ず簡単に性病の概念を申し上げます。

性病というものは性交によつて男女の間に伝染する病気で、今日、性病と言われているものが四つある。それは梅毒、軟性下疳、淋病、それから風濕淋巴肉芽腫症であります。性病ではないが性交によつて伝染する皮膚病も大分ある。その中で最も普通なもののは疥癬と陰癬と言つて陰部の毛髪に感染する所謂毛じらみ、これが非常に多いのであります。

第一表 梅毒



○ 梅毒 (第一要参照)

梅毒は、性病中で一番おそろしい疾患で、性病というとき梅毒を連想するくらいにおそろしいものであります。と申しますのは、他の病気が大抵局所的なものであるに反して、梅毒は全身疾患であるのみならず、子孫にまで病毒を伝えて遺伝梅毒とか先天性梅毒などを惹起するからであります。梅毒の病原体はスピロヘータ、バグという沢山の螺旋形の細菌を持った細長い微生物であります。

梅毒は第一期梅毒、第二期梅毒、第三期梅毒、第四期梅毒とに区別されて居ります。

第一期梅毒というのはごく初期のもので、その特徴は、陰部の感染した部位に一つの梅毒頭大、あるいは大豆大くらいの硬結ができる。これを硬性下疳又は初期硬結といいます。しかしこの硬結は、感染してすぐにはできないので、約三週間ぐらい過ぎてから、自分では感染機会を忘れた頃に、その感染部位にシコリ硬結ができてくる。その表面が腐爛して汁が出てくる。触つてみると硬いが、しかし痛くないものだから、ついつつちやつておく。この間に風濕性関節炎が硬く腫れてくる。これも痛みを感じない。感染後約九週間ぐらい経つと病毒が全身にひろがつてゆく。即ち第二期梅毒に移行する。この時期になると全身に発疹ができてくる。顔から手、足、全身にできますが、非常に数が多く、小さな発疹や紅斑、丘疹、膿疱疹などがたくさんできる。梅毒の発疹というものは色が鮮紅色ではなくて、むしろ少し銅紅色を呈しているということと、それから痒くない。普通皮膚病という痒いように思ふが、梅毒疹は少しも痒くないのでついつちやつておくことになるのであります。又頭髮が脱毛したり、口唇粘膜にも発疹が出来て、声がかたまりするものも此時期であり、夜間になると頑固な頭痛や関節痛などを覚えるようになります。斯る発疹其他の梅毒症状は、出たり、ひっこんだりして三年から四年も経て、次第に第三期梅毒に移行します。発疹の類はれて居るものを頭症梅毒といひ、発疹の全然消えて居ないものを潜伏梅毒という。

第三期梅毒になると、単に皮膚のみでなく体内のあらゆる臓器や骨などを侵してゆく。第三期の発疹で特異的なものは膿腫である。顔面や足や頭に大きな膿瘍ができる。これは数が少なくて大きい。単に皮膚だけでなく、筋肉、骨までも侵す。そうして、いわゆるおねからみと言つて、鼻が落ちる。あるいは上あごがぬけて、声がかたまり、フワフワになる、というのは第三期梅毒の場合です。この膿瘍が治る時には非常に醜い瘻管を残します。それから病毒は更に進んで腸胃腸や神経系統を侵すようになる。これが、第四期梅毒(又は変性梅毒)であります。

第四期梅毒の代表的患者は背癰瘻と、麻痺性癱瘓とで、これは難治の病気でついに癱人となります。

梅毒 血清 反応

よく言う梅毒反応 血清反応は、感染の直後即ち第一潜伏期の間はひろく起つておりませんが、硬性下疳ができてからもう少し経つてからあらはれてくる。大体感染してから三十五日ぐらいで、血液に梅毒反応が出て来ます。病毒が全身的にひろがつた証であり、梅毒反応陽性の一番多いのが第二期潜伏梅毒患者である。

潜伏梅毒患者には発疹がないのでちよつとわからないが、血液を調べるにヘツキリ反応が現れてくるというのが割に多い。後で申上げる兆瘰癧には斯る患者が多いです。それから普通梅毒の感染は陰部であるが、時としては陰部でなく皮膚陰部外に硬性下疳が出来ることもある。それはキスなどで、唇にできる、頬べたにできる、あるいは首筋にできる。乳房等にできるし或は指に出来ることもある。これ等を陰部外硬性下疳といいます。

以上が梅毒について大要を申述べたのであります。

○ 軟性下疳

軟性下疳というのは、軟性下疳菌又陰デュークレイ桿菌という一種の連鎖状に連つた菌が病原体です。これは梅毒と違って、感染の機会があつてから二、三日すると、感染部位に赤い小さな小豆大くらいな丘疹ができる。その丘疹の中心が化膿して破けて、潰瘍となつて、だんだん大きくなり、又周囲に膿がつくと、次々に数が増してゆく。これは軟かくも、刺戟痛及び圧痛がある。それができてから二、三週間経つと、鼠蹊部リンパ腺がはれてきます。梅毒の時とは違つて、今度はそれが赤くはれて、スミズキと痛む。また、抑えると痛い。時に熱を持つてくる。梅毒の場合は無痛であるが、これは痛みがあるのでも痛便毒という。しかし軟性下疳は局所的の病気であつて、全身に病毒が広がつてゆくことはないからその点は安心であります。混合下疳というのは軟性下疳菌の潰瘍が出来ない。混合下疳というのは、同じ場所に梅毒病原体と軟性下疳菌とが同時に感染することがある。初の間は軟性下疳菌の潰瘍が出来るが、三週間も経つてから潰瘍に硬結がだんだん現はれて来て、遂に立派な梅毒初期硬結になつてくるので、これを混合下疳といいます。

混合下疳は形から見ると軟性下疳のようであるが、事実は梅毒初期硬結になつてきているのであります。

○ 淋 病

淋病の病原体は、淋菌という一種の双球菌であります。これは主として粘膜を侵す。普通尿道の粘膜、性器の粘膜を侵して急性炎症を起す。また眼に入りますと、いわゆる風眼になり、失明することもある。梅毒とか軟性下疳が主として皮膚科で取扱われているのに反して、淋病の方は多くは泌尿器科または婦人科の方で治療を受けています。この淋病は、急性に始つて慢性に移行するのみならず、尿路だけでなく、外陰部だけでなく、男女の性器に感染しますと、男の方では前立腺炎や副腎丸炎になると、女の方は子宮内膜炎、タッパ管炎あるいは卵巣炎を起すといった場合で、不妊症の原因になるのみならず、骨盤腹膜炎などになると、非常に重篤になる症状を呈します。稀には淋菌が血行中に入つて方々の関節の粘膜を侵し関節炎を起すことがあります。淋菌性の関節炎では、膝に強直といつて、足が伸びたきりで固まつて曲らなくなるものもあります。きわめて稀には心臓内膜炎などを起し、これは生命にも危険を与えることとなります。まず、淋菌が尿道粘膜に感染すると、二、三日、時には四、五日くらいの潜伏期を経て発病する。尿道粘膜がだんだんと赤くなり、はれてくる。そうして黄色い、緑かかった濃い膿汁を分泌する。小水をする時には、尿道に高度の灼熱感を覚え燃えるように痛い。ことに女子ですと、尿道が短い関係からすぐに膀胱炎を起す。したがつて尿量頻数と腎つて、小水が近くなり我慢出来なくなる。それから小水の終る時にずんと痛む。時には排尿終末出血といつて、小水の終りに一、二滴血が出る。斯る症状を俗にシヨーカーチと腎つて居ります。

○ 風 痰 淋 巴 肉 芽 腫 症

これは二名第四性病ともいいます。病原体はきわめて小さいもので、淋菌などの何分の一かの小さい宮川小体である。本病は感染の機会があつてから一週間乃至二週間の後に陰部に、小丘疹又は小さな水泡ができて、それが原発疹です。ところがそれに気がつくのが少い。多くは見逃がす。それが治つてから、その後一週間ぐらゐの瘡つと風痰淋の淋巴腺がはれてくる。沢山の淋巴腺が腫れて来て、それが癒合して、塊状に腫れてくるし、表面の皮膚の色が赤つて、一部化膿して、破れてそこから汁が出始める。なかなか治りにくい。いつまでもいつまでも瘻孔が残つて居る。その間、時々悪寒があつたり熱が出たり、非常に食欲不振で、全身症状を起して来る。一般に慢性の経過をとるものであるけれども、大体において、命にどうということはないが、女子では陰唇に浮腫性の腫脹といつて、その辺がはれて水気を持つてくる。遂には固くなつて象皮膚病のようにひどく肥厚する。あるいは女子だといつて直腸狭窄などを起して非常に治りにくくなる症状を呈することもあります。

第二表 性病の罹患率

項 目 年 次	性 病 罹 患 率			
	全 患 者 数	国 罹 患 率	東 患 者 数	京 罹 患 率
昭和23年	478,822人	5.9%	30,445人	5.6%
24年	386,900	4.7	31,127	5.3
25年	316,044	3.8	23,404	3.7
26年	270,857	3.2	16,377	2.4
27年	223,122	2.6	15,990	2.2
28年	191,631	2.2	12,001	1.6
資料出所	厚生省公衆衛生局防疫課		東京都衛生局 性病課	

二、性病の蔓延状況（第二表参照）

次に性病の蔓延状況ですが、厚生省の公衆衛生局の防疫課、東京都衛生局の性病課等から得た材料に就て申上ります。何れも届出によつて得た数字です。

これを見ると全国で性病患者数が、昭和二十三年の四十七万三千八百二十二人が一番多かつた。これは全人口の五・九%に当る。即ち百人中六人は性病ということです。だんだんと減つて来て、昨年あたりだと十九万一千六百三十一名ということで、全人口に対して二・二%となつて居ます。それから東京ですと、昭和二十四年が一番多かつた。三万一千二百七十七名で全東京人口の五・三%に相当します。これも昨年昭和二十八年には一万二千人に減じ、その罹患率は東京全人口の一・六%ということになる。しかし以上は届出による数であつて、当局の考えでは、實際数はこの十倍以上と推定している。十倍というは全国の罹患率は二・二%、東京での罹患率は一・六%……百人のうち十六人までが罹患したということになります。

その患者の性病の種類はなんであるかというと、三分の二……大多数は淋病で、次ぎが梅毒、残りの少数が軟性下疳、第四性病、という順になつて居ます。

第四表 売春婦の性病

年次	売春婦の性病			東京都性病課
	梅毒	特飲女給	芸妓	
昭和21年	※ 37.5%			
22年	※ 32.1			
23年	※ 37.8			
24年	33.0	9.2%	3.7%	
25年	19.9	8.5	3.0	
26年	18.4	5.3	2.5	
27年	13.6	5.7	4.2	
28年	17.0	5.5	3.6	
陽性率検査	24年	40.0		
	27年	17.7	16.9	8.3
	28年	15.8	17.9	9.5

注 ※印はM・Pによる取縮

年には三七・八%の罹患率がありました。一度この頃はM・Pの取縮り時代です。ところが二十三年の九月からM・Pの取縮りがやめになつて、日本の方で取縮をやることになつた。その結果であるか、どうか解りませんが、漸次減少して来て昨年は一七・〇%ということになつた。

それから特飲女給の方はM・Pで取縮を受けたことはありませんが、街娼に比して余程少く、一昨年は五・七%、昨年は五・五%の性病罹患率があつたとの届出がある。芸妓の方は更に少し下つて、大体三%、四%という罹患率のようです。

以上の数字から見ると、非常に性病罹患率が少ないようですが、顕性梅毒や、急性淋病の患者が減少したのであつて、潜伏梅毒や、慢性淋病の診断のメケ敷いのなどは入つていない。

ところで、潜伏梅毒というのが一番怖い。潜伏梅毒は血液検査によつて始めて診断がつきます。血液検査の成績を見ますと、昭和二十四年度には非常に多かつた。街娼では四〇%までが血液の梅毒反応が陽性であつたがだんだん減つてきて、一昨年は一七・七%、昨年は一五・八%くらいまでに陽性率が減つてきました。特飲の女給は、前述のよう

第三表 性病の感染源

昭和28年 性病の感染源 (届出によるもの)	
男子性病者 2,879名	
売淫の疑ある者から	92 %
友人から	0.6 %
配偶者から	1.0 %
其の他	0.4 %
女子性病者 1,240名	
売淫の疑ある者から	0.08 %
友人から	2.2 %
配偶者から	53.6 %
其の他	44.1 %

三、性病の感染源 (第三表参照)

そこで感染源はどうであろうかということになる。二十八年度の調査で見ますと、男子性病者二千八百七十九名の感染源を調べると九二%までは売淫又はその疑いのあるものから感染している。友人(ガール・フレンド)からというのはあるにはあるが少い。配偶者からというのもし、その他というのが相当にあります。何れにしても大部分が売淫又はその疑いのある者から感染しているということになる。

女子性病者一千二百四十名について調べてみると、売淫の疑いのあるもの——男娼から受けたものはきわめて少いけれども、〇・〇八%あるらしい。友人(ボーイ・フレンド)からの感染二・二%。それから配偶者から感染したもの五三・六%で、一番多い。その他四四・一%というのは、お客さんから感染したものである。

四、売春婦の性病 (第四表参照)

さて、それとや売春婦の性病はどうなつているかということを見てみます。

東京都の性病課で調べた統計表より、昭和二十一年から二十八年までの街娼と、特飲女給と、芸妓と三つに分けてみますと、格段に街娼の性病罹患率が多いということがわかります。それを見ると昭和二十一年には三七・五%、昭和二十二年には三二・一%、昭和二十三

第六表 龜有診療所における有患者の減少状況

項目 月 日	龜有診療所における有患者の減少状況	
	受診者数	有患者
27年 1月	888人	58人
2	780	48
3	717	38
4	853	39
5	672	28
6	511	27
7	812	29
8	626	10
9	821	6
10	645	4
11	642	6
12	798	4
28年 1月	693	4 (淋4)
2	563	9 (淋9)
3	587	2 (淋2)
4	784	5 (淋5)
5	563	4 (淋4)
6	413	5 (淋4 軟1)
7	743	4 (淋3 軟1)
8	565	3 (淋3)
9	689	4 (淋4)
10	615	5 (淋4 軟1)

○ 赤 線 区 域 — 龜 有 —
 まず龜有に就て申上げます。(第六表参照) 龜有はもと、玉の井の分れであります。昔、私が東大におります頃に玉の井で感染してきた患者が非常に多かつたから、最初に龜有を選びました。龜有に行つたところが、思つたよりも盛頓されている。龜有の診療所の主任をしている医師は永年私と懇意な人で、非常に良心的な医師で、真面目に治療している。又業者並に従業員に対して性病に関する予防教育をよくやつている。そういう意味から一つのケースだと思つた。

龜有は現在業者が四十二人、従業員が百五十人内外というところ。一昨年のや月頃には延べ八百八十八人の受診者中から毎月五十三人有患者があつたのが、だんだん減つてきて、十二月頃には四人くらいになつた。

問題なんです。すべての潜伏梅毒が感染源になるといえないが、絶対に伝染しないとは言えない。従つて危険と考へなければなりません。

五、特飲街の探訪

に頸症梅毒などは減つてゐるが、潜伏梅毒の方は依然として変らない。殆ど街頭と同率に陽性を示し、一同に減少する傾向はありせん。又芸妓の方は、ほんとうの頸症梅毒や淋性淋病を患つて居るものは極めて少ないが、梅毒血清反応を調査すると八%、九%というように陽性を示します。

東京都内の所謂赤線区域に於ける最近の状況

東京都性病課で(二十八年度)、新吉原、龜井凡、ベレス(小岩)、洲崎、隅田、新宿、龜有、立石、新小岩、千住、新田、北品川、向島と十三地区について調べた結果を見ますと、第五表の通りです。

これで問題になることは、検査を受けないものが相当にあること、その欠席者中に有患者が多数あるのではないかと疑はれることとであります。要するに金体として頸症梅毒は、著しく減少して居るが、梅毒血液反応陽性者、即ち潜伏梅毒患者の数は一同に減少してはいないことが知れます。

その潜伏梅毒の間でも感染するかどうか

第五表 赤線区域の性病患者 — 東京都 —

昭和28年13赤線区域の性病患者調べ		東京都性病課
業 者 総 数		1,097人
従 業 婦 数		3,640人
受 診 延 数		207,816人
欠 診 延 数		26,568人
病 者 数		6,016人
梅 毒 症 数		37人
淋 病 数		5,876人
軟 性 下 疳 数		103人
第 四 性 病 数		10人
陽 性 率		28.9%
梅 毒 血 液 検 査	検 査 数	25,534人
	陽 性 数	8,460人
	陽 性 率	18.55%
	新 陽 性 数	736人

昨年は更に罹患者の数が減つて来て居ます。そこでいつたい彼女達は、性病というものをどういう工合に考えているか。また性病に罹つた場合には、どういう工合にそれを処置しているかというのを少し詳しく聞いてみたんですが、一言にしていうと、彼女達は性病を非常に怖れて居る。彼女達の間で、学生会とかいう相互扶助の会を作つて、毎月衛生費を積み立てて、病氣診療を診療所に委託しています。この診療所は新しく出来た二階建の建物で、設備も相当地でできており、しかも熱心にやつて居るのでいくらか安心したようなわけですが、一般の注射、内服、入院等の費用は一切無料で受けられる。しかし、ベニシリンの料金だけは自分で払う。コトコト一杯分ぐらいの料金を払うつもりで、むやみに注射して貰つて居る。大体三十万単位のベニシリンが五十四円と思ひますが、コトコト一杯換約してベニシリンを射つといつて居ます。昔は、「診療所へ行け、病院に行け」と言つても非常に拒んだものですが、今ではみんな、自分から自衛的に検診も受けるし、治療を希望するようになった。なにかちよつと自分に不安だとか、今取つたお客が少し怪しいと思つた場合には、直ぐにベニシリンを打つてもらうといふことをやるようです。たいてい二週間に一回、多い場合には二回くらいベニシリンを打つ。又、ベニシリンを打つと、實際子宮あたりは異常感があるつたものでも、止まると彼女等は言つております。又、陰部あたりは擦過傷でもありますが、必ずやつてきます。そして病弱しては怖いからといつて注射をして貰う。彼女達は一般に肉體は強つて、注射を希望する傾向があります。

以上のように、自衛検査による罹患者は減少しては来ましたが、しかし、ワッセルマン反応(血液検査)を見ますと、「一〇%は下つておりません。換言すると潜伏梅毒患者が相当にあるのであります。

それから、その主任医が力を入れて居るのは「彼女達に自衛の觀念を植えつけている」ということです。それは、「性病は怖ろしい、危険であるけれども、予防と治療さへすれば完全に治る。しかし病氣を放置して治さずにおくことと、自己防衛を怠つて客から病氣をうつされることが怖ろしいことである」というので彼女達の頭にしみ込ませて居ることでした。彼女達にとつては「客は感染源だから、年中感染の危険にさらされているのだ。だから年中医者の監督の下に自衛につとめなければならぬ」ということをいい聞かせて、怖しいものだけれども早く治せば治ると言ふことを知らしめて居る。

それから第二には、洗滌を熱心にさせること、事前事後の洗滌ほど、性病予防に有効なものはないのでこれを厳等励行すること等をよく吹き込んで居る。現に洗滌設備がない家は軒もない。中には自動電氣加温装置による洗滌器を備へて居る家もある。客が代る毎に「ベニシン」という洗滌剤を腔内に入れ、客が代つたら、洗滌して新しくそれを「鏡」入れするように奨励して居る。それでも、然

し中には少数のものぐさい連中とか、酔つぱらつた洗滌を怠つたりして、洗滌其の他の予防に全然関心を持たぬ者があるが、大體において予防処置を実行しているものとす。悪い言葉ですが「ツボウツレ」ということがある。前の客が梅毒あるいは淋菌の入つた分泌物を持てゐる。それを洗滌しないで次の客を取るとこの客に感染させる。自分は病氣でなくて感染させる。即ち一人の客の病氣を他の客に移すことを「ツボウツレ」というが、そういうことも、中にはない筈だと言つております。

それから第三に、強制的に週に一回、時には、なにか異常がある場合には二回、ベニシリン注射を行うことによつて、性病感染の予防と早期治療を徹底するようにして居る。それから週一回乃至二回の検診は励行して居る。その検診の他に、少しでも異常がある場合には自分から進んで来るようになって居る。現に、彼女達の教育程度が高くなつて居る。昔、玉の非辺りでもその医師が関係していた頃には、無教育の者が相当あつた。教育のある者も小学校程度であつたが、今彼等では、高等小学校乃至新制中学校程度の者が四十何パーセント。無教育の者は極めて少数となり、却て高等女学校卒業程度の者が増加してゐる。仲間のことでもあります。又彼女達自身が検診を受けた場合に、有難者であるという刻印を捺され、入院を命ぜられることは、仲間の手前、非常に屈辱と考へて居る。したがつて、自衛的に、前記のようなことを一生懸命実行している。それから業者も、彼女達の相慰することがなによりもおそろしい。これは自分のふところに関係することであるから、なぜ洗滌しないかとか、なぜ診療所に行かないかといつて、厳重に監督して居る。女給になつたばかりの若い人は熱心に条項を守るが、少し馴れた、甲羅の生えたものになると、自分等は不死身であると威張つて、診療所に来ないものもある。そういう連中をなんとか狩り出して検診しようと思ふが来ない。そういう場合には業者が言ふと、不承不承出てきて検診を受けるといふことも言つておりました。特飲得の診療所、特飲得の状況にもピンからキリまであるでしょうが、趣有が今のような状態で割合に設備がよいが、こういうのはもしも特飲得が徹底されることになつた時に、なにか東京都として利用するとか、性病の相談所にするとか、利用すべきものじゃないといふ考へておられます。

○ 芸 妓 街 ——— 新 橋 神 楽 坂

新橋の芸妓組合と神楽坂の芸妓組合を少し調べて見ました。新橋には約三百名の芸妓が居る。他のシマと違つて、これは周旋屋の手廻り廻るものはほとんどない。これは、いわば身内關係から紹介されてくるといふことになつて居るようです。また、芸妓に門入るためには、必ず健康診断を一切受けることになつて居る。もちろん性病の有無も充分検診する。健康診断は、

た者が抱えられ、そうしてお座敷に出る。それで彼等は何れも口を揃えて言うには、他所は知らないが、新橋の芸妓は一人として売春はしないと談話しております。やはり固定した、あるいは旦那があるか、パトロンがあるか……一流の連中には夫々あります。しかし全部が全部ということはありません。従来新橋組合での健康診断は銀座東にある右字田某君が長年責任を持って担当しておりましたけれども、数年前に病氣になつたので、その後は財団法人の日本性病予防協会が実際に當つて、おりますが、一見して性病と診断のつくものは非常に少い。やはり春秋二回、指導検診をする。時には数名のワッセルマン反応の陽性患者が出ますが、他と較べて非常に少いことはたしかです。又、ワッセルマン反応の治療を永年やつて居るにもか、はらず難治のものが、時に見付かる程度です。

神楽坂組合の診療所を尋ねてみました。神楽坂見番の二階に診療所を置いてあります。芸妓数はしよつ中増減がありますが、大体二百七十名乃至二百八十名くらいの芸妓が居る。古い芸妓はあまり興動しないが、新しい芸妓が絶えず十名ぐらゐつゝ異動している。その移動は、第三者の手を経て興動する者もあるが、親元に帰るということも異動する者もある。彼女達の性病に対する態度、本人にも、又診療所主任に聞いてみたが、年と共に進歩してきている。個人としては、病氣になつては、遺憾なく病に闘つて、速に癒して、それから藝妓の主人も、やはり大体において病氣を早く治すように心掛けて居る。が然しやはり自分等（主任医）が見ても、あの家は……と思う家がある。そういう家は、抱え子で病氣になつた者を虐待する向きもないではない、といつております。それから、診療はもちろん強弱はしないで自由診療で、罹患者は、数年前には月々十名以上の急性の患者を見たが、本年になつてから減つてきた。一月には一名、二月一名、三月三名、四月にはなく、五月には今までのところは一名という状況で、何れも淋病患者だけである。頸症梅毒その他はほとんど見られない。

神楽坂では、芸妓の花代が一時三百五十円だそうである。この花代を切半して、半分は風主、半分は自分の方に入る。その中から診療所の維持費、人件費を払う。しかし病氣になつた者は無料ではない。薬価及び治療費の共費だけを自分で支払うことになつて居る。維持費とか、お医者さんとか看護婦の人件費をみんなで集めなもので払うということになつて居る。

それじゃ売春はどうかというのと、芸妓は売春が目的ではないので、花代だけは一定して居るか、売春の報酬はわからない。これは個個別別で、その相場は知らないということである。それは却つて税務官吏の方がよく知つて居ると言いました。なかなか税務署の方では調べて居るのでしよう。特飲街と違つて、これも週期的に別に検診してないけれども、都から役人立会の下に、年に

二回は一斉指導検診をやつて居る。それは二種類あつて、一つは局部の検診——この場合には、全部欠席者なしに出ますが、他の一つは血液検査ということになつて居ますが、この時は欠席者も相当ある。芝居とか映画に行く、といつて来ないものもある。どのくらい欠席するかと聞くと、去る五月十八日の一斉血液検査の時に二百七十名の中受診した者は百九十名で、欠席者が八十名あつたということでありました。この欠席者中には自分が後暗くて検査に来ない者もいるのではないかとすることも考えなければならぬ。

その医師の言うには、昔々数年前血液検査の場合に、陽性率が約三〇%ぐらゐあつた。またその近所の飲屋あたりのものは五〇%ぐらゐ陽性であつたと思ふが、だんだん減つてきて、今では陽性率は約五%内外となつてきた、こうやつております。その五%という数は、同医師が繰て壮丁検査、徴兵検査に立会つたことがある。その頃にワッセルマン陽性者が壮丁の中に約五%内外あつた。それと同じくらいな程度に若者の陽性率が減つてきている。と言つております。

まあそのくらいで、あと、こぼれ話を二、三申しあげます。

六、その他こぼれ話

これは東京都の性病課で調べたものの受け売りですが、一般市民無差別調査を秘密に行つた結果、こういうことがわかつた。梅毒は〇・九%、淋病は五・二%あるということです。なおその時に一階に調べたが、結婚まで童貞を守つたものは、男子では三六%、女子では六六%、という答が出た。それからもう一つ、吉原病院長の話で、新吉原では業者が二百七十人前後、従業員が八百名から一千名内外である。一週一回の検診で、毎回受診者は全体の六割内外で、四割内外は欠席する。この非受診者の中にどうも患者が多いように思ふということ。毎回検診毎に淋病患者が七乃至八%ぐらゐあるが、頸症梅毒はきわめて少いということと言つております。それからもう一つこういうこともある。いつたい、特飲地区あたりの売春婦が罹患し、治療を受けて治る。治つては又罹患するに違ひないが、その頻度はどの位かと調べたところ、平均一ヶ月半の間隔をおいて各人が罹患するように思ふと言つております。これは平均で、中にはもつとも短いものもあるかもしれないし、中には罹患しないものもあるかもしれない。ですから四六時中眼が離せない。しよつ中、自衛処置をやつていなければいけない。一週間に一回の検診では、自分が感染して居るか、居ないかということとはわかるけれども、いわゆる前にも御話した「ツボウツシ」などはわからないから、この意味から

いうと、少くとも一週間に二回三回、もつとそれ以上検診しなければならないが、それは不可能であるから、事前事後の洗の
勵行を怠つてはならないと思ひます。

それから集娼に対する検診は、全国的に見ると全然自発的に行つてゐるものと、その際に県が検査にタッチするところがある。福岡県などは、必ず県がタッチする。どの程度かわかりませんが、散娼にも、自発的に一定のところでは診察を受けるものが少しはあるが、多くは全然、放置されているものらしい。これが一番の危険なものであつて、特赦街を撤回することになると、それが娼娼になつて進出して行くことも予想されるが、そういう場合、それらのどういふところでどういふ治療を受けるかといふこと、そして性病がどんな形で一般家庭に蔓延して行くであらうか、などと考える時に、性病予防事業に關係を持つて居る者としては、今から大に考えなければならぬ問題であると思ひます。

御参考までに厚生省で大体考へてゐる対策を申し上げます。

一、一般国民に対し保健所中心に早期発見のため集団血液検査を学校、会社、団体単位で、身体検査の時に進行。接客業者には特別に重点をおく。

二、娼婦、乳幼児の全員に血液検査をする。

三、売春婦については、全国的に健康診断の強化。これは自主的にまかせず、都道府県が立会つて厳重に行う。

その他、治療が安く出来るように、国庫によるなどして公的な治療を考へたり、又、夜間治療もしたいと思つてゐるが、厚生省では、今年度の性病予防対策が削られたりして困つており、婦人の世論がおこるのを顧みにしてゐる状態です。

その為には、啓蒙教育も必要なのですが、例えばラジオなどでこの種の話を放送すると、「けしからん」という投書があつたり、世論調査でもこの種啓蒙に八二%が賛成であるが、「子供がきくと困る」といふ条件つきなのでなかなかむずかしい。

性病予防協会でも、何か映画でも作りたいと思つてゐるが、金がないので大変残念です。

前借金の問題

一、前借金問題

前借金契約というのは、娼婦、殊に芸娼妓契約或は接客婦となる契約締結に際し、金銭を雇主から借入れ、これを一定期限内の娼妓によつて弁済することを約する契約であつて、一般に人身売買には、つきものと言われているわけです。それ故、前借金一つだけで問題が起ることはなくて、常に必ず何等かの他の契約とくつてゐるのです。それで、今日は一番問題がある娼妓の丸抱え契約と終戦後現れた下宿業者としての樓主と売春婦間の前借金（前借金には食費、衣服の給与も入つてゐる）の問題について判例を通じて考へてみたいと思ひます。

前借金の背後には必ず芸娼妓の人身売買契約、半期借金といふのがついてゐるのですが、人身売買は、刑事上では、営利誘拐罪（刑法第二二五条）、日本国外に移送する目的で人を売買する罪（刑法第二二六条）として、或は逮捕監禁罪（刑法第二二〇条）として、時には職業安定法違反、労働基準法違反として処罰の対象となるのでありますが、普通前借金といふときは、民事的な問題としてこれが有効か無効か、すなわち、前借金を貸した賣主は売春婦又はその金を受けとつた人からその金を返してもらへるかどうかといふ議論となるわけですが、今日は広く刑事的問題をも含めて少しお話ししてみたいと思つております。

前借金については、終戦前と終戦後では大變違つてきてゐます。前には、契約書に前借金の額、年率、損害金等がつきり書いてありましたが、しかし戦後公娼廃止に関する覚書、憲法、労働基準法の基本的人権の保障に関する規定等から、前借金、雇約金等により人身の自由を制限し、又は強制するわけにはゆかないと、業者も判つて来たのでしようか。最近のは契約書を取りかわさないので、契約書自体からはつきり状態がわからない。従つて、前借金を賠償されたから返してくれといふ話も見当りません。然し、日々の新聞でみるように、現案には、人身売買は絶えず貧困と人々の無關心さはこれをして恥ぢないやうな様相を呈してゐることは、御承知のとおりで、刑事上の判例には、前借金について、いくつかふれておるのであります。では、芸娼妓制度に関する法制の變遷及び判例に現われと我が國の人身売買問題を歴史的に、明治の初めくらいから追つてお話しし

二、判例にみられる前借金問題の歴史―明治より終戦時まで

我が国において人身売買が古くから行われていたことは、みなさんも御承知のことですが、明治になりました、いわゆる芸妓解放令が明治五年十月二日に、太政官布告二九五号として出され、時の江藤司法卿は、同年十月九日達第二十三号で、芸妓を解放し、人身売買は無効であると宣言をしています。ですから法律的に言えば、明治五年から人身売買は無効であるということになつて、前借金があつても、返してくれという訴えはとりあげないという解放令が出ていたわけですが、翌年になりなすと、もうそれが怪しくなつてきている。というのは明治六年の十二月に、芸妓養育規則と、貸借教養世規則、というのを出している。それは、芸妓を抱えることは禁じているが、芸妓自身が独立の営業者ならばいいというわけです。更に明治三十三年の芸妓取締令では貸座敷で免許されたものに限りよろしいという規定があり、芸妓を抱えることを許した。(この内務省令は終戦直後昭和二十一年二月に再び内務省令で廃止された。)すなわちこの規則では抱えを許し、同時に芸妓の自由廃業権を決めている。自由に廃業してもよろしい、芸妓名簿の削除については何人も妨害することを得ないと規定されたわけですが、自由廃業しようと思つても、貸主側の事実上の妨害から、これもなかなかできなかった。これ等のことからみると人身売買的な芸妓抱え契約は法律の上では原則として認めないが、まあやつてもよろしいということ、廃業権を決めたりしているところからも芸妓抱え契約を政府は公認していたというふうなことになるのです。判例も行政上許された行為だからと有効としております。芸者の自由廃業権が認められなかつた以前に於ては、府県の取締規則によつて芸妓は単独で廃業できず、廃業するための要件として、芸妓と抱え主との通算がある届出を要するというものでありました。しかるに芸妓が廃業したいと思つても抱え主が届出に調印しないときに調印を請求する事件が二つばかり大審院判例としてあります。その一つは芸妓が、背理炎という病氣になつたのに、どうしても抱え主が届出に調印してくれないから廃業届に印を捺させてくれという請求を裁判所に出した。それで裁判所は芸妓がその人身の自由を他人に克渡すことができないということを承認し、芸妓側が勝訴したいという例であります。判例も明治三十三年の芸妓取締令施行の頃には行政上許された行為であることを理由として有効と解するようになったが、明治の終り頃から行政上許された行為でもそれをするを不当に強制する契約は許されないという理由で、明治五年の解放令のときのようにその契約は全部無効とするようになった。そして一定期間、芸妓をするを強制する契約は民法第九十条の

公の秩序善良の風俗に反するから無効としていることは例外がない。しかし前借金の債務については、芸妓抱え契約は、金銭の貸借(前借)と、その非済方法としての芸妓抱え(芸妓抱え)との二つの部分からなるとの前提の下に、両者が不可分で分離できないようなときは無効だが、そうでなければ貸借契約は有効だとしている判例が多い。

大正十年の判例には、一定期間芸妓の収入全部を抱え主の所得とし、中途退去する場合に苛酷の責任を課する契約は著しく人の自由を拘束し、無効であるという判例が出ている。この判例においては、親権者が十二才の未成年者である子供の代理として、その芸妓抱えの営業者との間に向う十年間契約をし、その子供を、芸者に仕込んで後に一本に出すというわけですが、その間、衣食費とか、芸道教示費は、抱え主が支出し、将来その子の芸妓抱えによる収益は皆抱え主がとる。その年期が明けるまで逃ないでいれば、芸者が働いて借金をなし崩して行くので問題は起らないのですが、若しその期間内に退去し又は逃げようなどがあるると損害金を莫大にとる。借りた前借金はこの例では、その頃で金二十円を借用したわけですが、それで逃げれば、その金と年五分の利息と食費だとか芸道教示費などとして一日十二銭の損害金を払い、なおその他の損害を賠償すべきこととし、この債務を父が連帯保障しているという契約内容です。この判例においては、原簿ではこの約束(前借金に関する部分を除く)は有効であるとしているのに対し、大審院では右の約束はその子に苛酷な責任を負わしめて十年間芸妓抱えを行わせることを目的とするから著しく個人の自由を拘束するから無効であるといつています。原判決が「前借金に関する部分は除く」としている点に關し、当時の控訴院は、前借金に關する約束は金二十円を目的とする純然たる消費貸借の意義であるがまた名義は貸借契約だがその真意は芸妓抱え契約の實質を構成し、その娘をして芸妓抱えをなさしむる対価として金二十円を授受し、その娘に不当の所行あるときは損害賠償として同額の金額を支払わせる意義であるかが明瞭でないからもつとこの点を調べなくてはならぬ。前者なら前借金の返還を請求できるが、後者なら契約は無効だといつています。すなわち人身の自由を拘束しない借りは有効だが芸妓抱えをさせて返させるのは無効としています。この判例は大体当時の判例の傾向を代表しているといえよう。

又、刑事の大審院判例に、偽計を用いて芸妓を逃走させ、貸座敷における芸妓抱えを休業せしめたときは、その第三者(ひも)は業務妨害罪となるというのがあります。事実、藝妓抱えして前借金をふみ倒すというのがある。そんな場合に、やはり債権は債権として残しておいた方が私有財産を認めている以上いんじやないかという立場があるわけです。しかし人を克買してその代価としてお金を取つたということは奴隷的売買である。丸抱えして一定期間しほり、物として賣つたものに克買させてお金を

を返さざる」ということは、基本的な人権尊重の立場から許されないので、それを前借金と芸妓の職業たる行為方法がイコールであるかを問わず全部無効にしたらいふじやないかというふうには言へない。民事上の問題としますと、前借金はやはり、今まで、芸妓の職業によつて既に弁済されたものと見るべき額がとれなければならない。その残りについては、お金を返さなければいけないのではないかという議論も私法上の法律手続として仕方がないというのがある。そうして判例も昭和八年くらいからこういう趣旨の判決が出て来たのです。それまでは大体無効だといふような判例が多かつたけれども大体終戦前までは前借金として切離されるものは有効という傾向になつてゐるわけです。芸妓が丸抱え契約だけを見れば、芸妓は身体を拘束され、長い年間の間そこに道具として雇われ、さらに莫大な損害金というのがついて、逃げようとしても逃げられないというようなこと、抱え主は実質的に支配権力を持ち、芸妓とか娼妓の身体を物のように処理し、販賣する権能を持ち、女中などをつけて監視し、人身を束縛して売淫という労働を強制するといふことは人権尊重の立場からいへば、その契約自体は常に無効といわねばならない筈ですが、今までは芸妓が公認されてた手前、何でも前借金は無効だといふ筈ではない。この契約で著しく個人の自由を拘束するのは無効だが、前借金については、それが分離できるとするよりは返さなければならぬというのです。しかし、返さなければならぬ残額というのは、きはめてはつきりしない。雇主というのは、自分の得になるような計算ばかりし、そのためにいろいろな名義をつける昭和二十七年の東京高等裁判所の判例にあるが、着衣、衣類を給与してこれを前借金にくり入れるならまだいい。売淫をさせて、翌日の朝七時になつても泊り客が帰らないと、朝席料とお金を取り立てるのだがその取立を売淫婦に命じてそれを取り立て得なかつた気の弱い売淫婦があると、それなども全部前借金に繰り入れるというひどいやり方をしている。そういうような計算方法が多い。ですから、前借金がいくら残つたかということ、実際はほんとうのところがよくわからない問題になるからいろいろ事情を調査しなければならぬ。

また、別祝儀と特別祝儀に関する契約についての昭和九年の東京地方裁判所の判決にこんなのがあります。それは十二社の見世で、(見世というのは料理店と芸者との間に立つて料理店の中入れによつて芸者を供給し、代金を取り立てて芸者屋に支払ふことをする所)客が料理店において芸妓をよび、遊興したとき、玉代として、一時間一円二十銭、祝儀として四時間毎に金一円を見世に支払ふ定めにして、客より祝儀の支払を現実に受けたら否とに拘わらず芸妓は玉代一円二十銭中金一円、祝儀一円中九十五銭を払ふことになつてゐた。これは客に売淫行為をしない場合の約束で公序良俗に反しないが、別祝儀というのは、

営業時間後の午後十二時から午前九時までの間に主として芸妓のなしたる売淫行為の代価として客より取得するもの、となつており、又、特別祝儀というのは、営業時間の中で芸妓のなしたる売淫行為の代価として客より取得すべき金銭、というわけです。この判例では芸妓屋と料理屋との間に見世が入つて売淫行為を芸妓にさせる別祝儀又は特別祝儀に関する契約は公序良俗に反し無効であるとしております。売淫行為をさせるのが無効であるということは、多く申上げるまでもないと思うのですけれども、一方前借金を法律上認めて返させるようにする根拠はどういうところにあるかというところ、それは前にも申しましたように、芸妓制度乃至遊廓制度が公認せられてゐるということであらうと思われなわけです。公認されてゐるということがある以上は、それをみんな無効にしてもどうかというわけです。

明治三十五年十一月二十一日の大審院民事部判決はこれをよく現わしている。「前借金はイリ某がその職業の取得を以て弁償し、イリ某が償却をなさない時は通帯保障になつた人が返済すべき約定なると明かなり。抑も娼妓の職業は法令に於て明らかに公認せられてある事項なるを以て、苟くも法規に定めたる場所、条件に従ひ営業するは法律上他の職業に従事する者と同視せざるを得ず。故に娼妓が債権者に対し出稼や営業の利得金をもつて借金の返済に供すべき契約は毫も公の秩序、善良なる風俗に反するべきものに非ず」としてゐる。原裁判の控訴院が娼妓出稼の予約を無効としたのに対して、大審院が債権債務の關係として残して前借金を有効としたという例があります。

三、判例にみられる前借金問題——終戦後

それでは終戦後はどうなつたかということが次に問題になると思うが、終戦後は民事的にもこういうことはいけないといふことを悉く知つて前借金を返せといふ訴訟は、私の調べた限りではないのです。人身売買は、まず一九四六年の一月二十一日に、「日本の公娼廃止に関する覚書」というので禁止されたわけです。それに伴ひ前の芸妓のいろいろな規則はみな廃止されました。新憲法十八条には、何人も奴隷的な拘束を受けないという規定がありますし、労働基準法も、人間の奴隷的使役や中間搾取を禁止しております。改正民法でも、今までは芸妓をさせるために女の子を養子にして法の眼をどまかしてゐたものが多いので、未成年者の養子をもらうには家庭裁判所の許可が要するというのを規定して、人身売買を法的に予防するようなことをしているわけです。けれども終戦後の経済的な混乱や貧困、人権無視の風潮からまだ盛んに前借金とか、人を売買するような

なことが公然に行われているわけです。法律でいくら禁じて、これを許すような社会基盤が改変されない限りそういうことは後を断たない。

民事的な前借金返還の例がまだ表面には出ないので、刑事的にどういうのが出ているかということを中心と調べてみたのです。労働基準法違反、職業安定法違反、児童福祉法違反として出ている。すなわち売淫婦又は姦姦として紹介手数料をとり有料の職業紹介事業を行うとともにその就業に介入して利益を得た、ということが、刑事的には職業安定法第三十二条、労働基準法第六條違反となり、売淫婦が十八才未満のときは児童福祉法違反となるわけです。先年、児童福祉司の大会で、裁判所のこれら被告人に対する刑が軽すぎて取締りがなっていないということで問題になったが、なるほど右の被告人等は大体懲役六ヶ月八ヶ月の刑に処せられたのが多いようで、法定刑が一年以下の懲役、又は一万円以下の罰金ですから軽いと云えば軽いといえます。

児童福祉法違反として二十六年十二月、名古屋の高等裁判例としてある例は、「児童に淫行させる行為」とは、十八才未満の年少者に直接間接に強制して淫行をなさしめる場合のみならず、かゝる年少者に対し、利害得失を説明して淫行するような示唆暗示あるいは特定の場所を提供してその便宜を図り、その結果、淫行をなすに至らしめたる場合をも包含するとあります。ですから、売淫をしないといふとすめなくとも、そうやってお金が入るとか、きれいな着物を着るのはいじやないかなどといつて示唆暗示してやらせても児童福祉法違反になるということです。

それから年については、十八才未満の者にそういうことをさせると児童福祉法第三十四條第六項の違反になるが、警察には十八才以上だということで居ける人でも、本当は十八才未満の人が多い。そういう人を雇う場合には、雇主はよく調べなければいけないということを要請している。雇主は十八才以上と信じていたというようなことを言いつておりますが雇主は正確な調査をしないで淫行させた場合は、児童福祉法第三十四條六項の罪を構成する。だから唯その娘が口で十八才以上と云つても又親がそういうつもりで、戸籍などよく調べた上でなければ雇つてはいけないということを判例で云つてゐる。しかしさつきもお話したようにその実刑はたいへん懲役八ヶ月が多いので被告人は一向にへこたれない。私がもと家庭裁判所に居ましたとき起つた例ですが、戸籍上は十七才なのに自分は十八才以上であると云つて戸籍上の年齢を十八才に訂正してくれとの断えをした者がゐる。それで裁判所としてもいろいろな証人を調べたら証人たちは口を合わせて事件本人は十八才だといふので十八才以上と思

つていたところよく調べたら十八才未満であつて慌ていたといふ事件もあつて前借金欲しさに親が機主と結託して裁判所をだまそうとしたわけです。

それから職業安定法違反というのはすいぶんたくさんあります。これは売淫婦とその抱え主との関係は普通の雇傭関係に当るといふふうに最高裁の判例がありますので、普通の労働者を雇入れるときと同様法定の除外例がない限り、有料職業紹介を禁じてゐるのに、周施料をとり、前借金を五万円等特殊飲食店大衆様に従業員として雇入れる契約に介在したとして懲役六ヶ月に上つた福岡高裁の昭和二十八年九月二十一日の判例があります。

それから、昭和二十二年勅令第九号婦女に売淫させた者等の処罰に関する勅令第二条違反の罪というものもありますが、その判例ですが、婦女を束縛又は強制して売淫をさせる結果を招来すれば、直接売淫を要求しないでも、婦女が自由な意志によつて売淫することを内容としてもそれじやいけない。そういう部屋を提供して、あとは自由だ！この前、神崎先生と調べました時も彼女等は「部屋は借りたもの、お客は客人です。」といつておりましたけれども「口では自由意志だといつても、抱え主の名を乗えただけの下宿業者の下では、直接又は間接に、心理的に婦女を束縛又は強制させる結果を招来するものであるから、売淫自体を強制するものでなくても一様に婦女を売淫させたものとして処罰すべきであるといふのが二十六年八月の福岡高裁の判例にあります。

それから職業安定法違反といつても、女の人が売淫婦にしてくれといふふうに頼んでいるのも多いので必ずしもだまして連れて行つたといふのは当らない。紹介者の周施料は一人につき千円とか千五百円、少いのは三百円、四百円といふものがあります。しかし、職業安定法、労働基準法違反の罪というのは懲役六ヶ月、八ヶ月が多いことは前述のとおりです。

東京高裁の昭和二十六年十二月の判決には軽飲食業者に婦女子を売淫婦として住み込ませて、就職の仲介をした場合、求人者から仲介手数料を取得した行為は、職業安定法違反、労働基準法違反の罪の二つに該当するとされている。犯罪事実等は昭和二十四年十月から二十五年一月までの間に、内村其他八名を横浜の軽飲食店矢島某方に売淫婦として住み込ませ、その紹介手数料として合計一万八千円を取つて懲役八ヶ月といふのであります。

もう一つ東京高裁昭和二十五年十一月二十五日判決があります。これは公娼制度廃止後における接客婦、特殊喫茶店の関係ですが、「被告人等は、有特殊飲食店を経営するに当り、山口某等の婦女子を被告人方に居住させ、これに食事を与え衣料を給与

していたこと、同人等は被告人等の居宅内で被告人等から割当てられた部屋で客の相手をしていたこと、被告人等は婦女子等が客より取得した金員をその名目の如何を問はず、全部被告人等に手交させていたこと、右金員は被告人等六分女子四分の割合で分配取得することとしていたが、右婦女子等の取得すべき金員は同人等の食費着物代その他の前借金返済に充てられていたことを認めることができる。論旨は山口某は被告人等方に寄寓し、客があれば客席に侍つてサービスをなし、求めによつて娯淫もするが、これは同人の自由意志によつて店主から独立してなすものである。従つて娯淫行為の面では、山口某が独立営業主であつて、被告人等はこれに何等関係なく、たゞ山口某はその収益から席料その他自己の寄寓費を歩合によつて支払つていたに過ぎないと主張するが、被告人等が単に寄寓していたのみで、その席料その他の寄寓費のみを支払うにとどまる。所謂独立対等の関係にあつたものとは到底認めることができない。むしろ山口某との関係は、従前のいわゆる店主と酌婦との関係と同様、實質的な使用従属の関係が存していたと認めるのが相当であつて、かく認めることは何等条理に反するものでなく、又真相と相違するものといふことはできない。「すなわちこの判例は、山口を接客業に従事する労働者とみて被告人等は労働基準法違反になるといふのです。この経営者は相当あくどいやり方をしてゐる。右の山口某が逃げる途中を発見され連れ帰られると所持金をとりあげ、その後数日間、女が髪結や便所に行くときも監視し、夜間就寝するときには外出着、シューズ等を取り上げて逃走を防止し、当人の自由を束縛し、その後一週間にわたり止むなく客席に出て客の相手をさせたことが認められるので、労働基準法五、精神身体自由を不当に拘束することによつて労働を強制したものに他ならない」としてなされてあります。先程の朝席料もどうしても接客婦がお金を取れないと、その金を接客婦の負担として前借金の中に繰り入れ、接客婦等が自分達の収支を記帳すれば、「お金に欲があるからそんなことばかりする」といつて叱責し、同人等が客から受領した金員は全部被告人に交付させ、飽くまで貪慾を發揮している。

右の判決は「かくの如きは新憲法下において許し難い人身の自由の拘束であり、自由なる契約の仮装の下に封建的な奴隷的支配関係を存続させているものと云わなければならぬ。以上の点から考へる時は原判決の被告人に対する量刑は輕きに過ぎるものと認められるから、檢察官の控訴は理由があり、原判決はこの点において破棄を免れない。」といつてゐる。この契約は昔でいへば丸抱え契約でなく、丸抱えの女がその年期の明けた後に抱主との間に「分け」「七三」と呼ばれる契約を締結するといつた形態と見るべきでありましょう。

もう一つ、営利誘拐罪で福岡高裁、昭和二十八年四月一日の判例ですが、婦女を誘出し、久大練天ヶ瀬の温泉宿に同行、同宿以て同女を自己の支配内においた事実を認定している事件ですが、このときも被告人は同女を身売りさせようとしてゐる。こういう場合は前借金は本人ではなく誘拐者がつてゐるのが普通で、或は親、亭主がつて了うことが多いのでこんな場合、売られた婦女がその前借金を返すということは法律的にも出てこないと思ふ。

四 結 び

以上申述べましたように、判例は今までは（終戦前）娼妓制度乃至遊廓制度が公認されていたため、前借金とその返済方法である稼ぎとが可分のときは私法上有効とみていた。しかし人を「抱える」とことは今では徹底的に禁止されている。いくら営業主が仮装してもこゝで娯淫させるという違法な目的は露呈されざるを得ない。一方家族制度的な家父長的な権力から親や夫、ひもに連られる婦女子は前借金の引渡しをうけず、家父長たるボスがその金を實際受けとつてゐることが多い実状に鑑みるときは、前借金の返還は民法第七百八条によつて、営業者はその返還を婦女子には請求し得ないと解すべきではないかと思ふ。尤も前借金を返さしめつた第三者は刑法上詐欺になることはあるが、しかし「春問題」という法律問題を離れて根本的な社会の構造を少しづつ考える必要があり、また個人の尊厳といふことがもう一度考へられるべきだと思われれます。

御存知のように、全国に十七の施設がありますが、その中の三つを救世軍が引受けています。最近函館にも——これは十七の中に入らないが——市から委託されて運営することになったのがあります。それらの救世軍の資料や、そこに働いている人達の意見を取り入れて、それに私は、最近直接には従事していませんけれども、多少経験がありますので、それと一緒にして、今日私の質をふさぎたいと思っております。こちらにいらつしやる方々は既に研究を積んでおられるのですから、釈迦に説法ということになりますが、初めに初歩的なことから申しあげましょう。

一、更生寮にはいつてゐる婦人

この十七の寮にどういふ経路で、どういふ婦人が来ているかということを申しあげてみます。

(a) どこから来るかという点、検察庁、家庭裁判所、警察署、福祉事務所、児童相談所、生活相談所、家庭、病院、街頭、また自分で考えて来る者もあります。

(b) その人々の前の職業を聞いてみますと、女工員、女中さんがかなりいます。それから事務員、農業者、家事の手伝、女給、売春婦などがあります。

(c) その数は、十七の施設によつて多少差異がありますが、転落する動機は主として貧乏です。なお、家庭の不和などにも基くのでしようけれども、勝敗、好奇心、浮浪性など申しあげることができましよう。

(d) 年齢はなんといつても十八、九、二十くらいで、二十才が一番多い。十四、五才のこともあります。一番多いのはとにかく十九才から二十五才くらいまで、あとは下り坂になります。

(e) 寮に来た人の学力は、小学校卒業が一番多い。次に高等小学校、次に高等小中中途退学、高等学校中途退学、高校卒業といつてもどうかと思ひますが、随分つく者もいますから、やっぱり小学校というのが一番常識的なところであろうと思ひます。

(f) 国籍は全国ですが、東京がかなり多いようです。けれども東京に本籍があるというよりも、東京に出てきてゐるのです。

(g) それぞれ自分の家の職業は、農業がかなり多い。入夫、とび職、会社員、漁夫、印刷工、教員、公務員などもあります。

二、売春婦への転落防止及びアフターケア案

今後法律が出来た場合に、保護のことが法律にくるめられればよし、くるめられなければ一方を処罰法、他の一方を保護の法律とし、二本建で行く方がよい。その方が力が入り、事業の運営上も都合がよいであらうという意見が、実際に仕事をしている人々の間には強いようです。何れにしても、保護の制度を樹てる法律が作られる場合には、婦人福祉相談所というものを寮に参ります前の施設としてほしい。それはさつき申しあげましたように、検察庁、家庭裁判所と、あちこちから彼等がばらばらにいろいろな形で来ますとたいへんに寮としては扱いにくいのです。それで例えば児童は児童相談所を経て養護施設にまいります。そのように、婦人福祉相談所を設け、そこを通過して、寮へ来るようにしたいということです。婦人福祉相談所は仮の名前で、それがそのようなものを婦人福祉施設が現在あるところはもちろん、その他必要な地方に必ず作つてほしい。そうして現在各機ではばらばらに行われているものを、そこで処理し、一元化してほしいということです。その婦人福祉相談所には、児童福祉の方で児童福祉司がありますように、婦人福祉司をおいてほしい。その婦人福祉司はどういうことをするかというと、その相談所を中心にして活動する。そこに婦人が相談に参りました場合には、その相談に応じたり、この仕事を推進させる役目をするということです。婦人福祉司は国の責任において設置してほしい。ある程度、少年保護司のように、権限をもつようにし、それぞれの施設には少くとも一人置くということをしてもらいたいと思ひます。

従来婦人相談所というのはあまり行われていませんが、神奈川県では県が運営し、相当よい成績を挙げています。よい仕事をしています。この相談所の一つの欠点は、昼間だけだということです。五時になると帰つてしまひますけれども、婦人の問題が起りますのは夜が非常に多いのです。もし婦人相談所を設置する場合には夜も開いて、婦人福祉司が活躍できるようにしたいのです。婦人福祉所には是非鑑別所が併置されてほしい。それから夜ですと、いきなり婦人を更生施設に送つたりするのがむづかしいです。そこには一時収容所を併置したらいと思ひます。例えばロンドンや、グラスゴウ等において救世軍の婦人社会事業部はリセイブホームというのを設けています。これは彼等を未嫁の母のための寮や、ヤングストリアルホーム等に送る一歩手前の施設です。そこで鑑別したり予期したり、調査して、その必要のある者は病院へも送ります。そこは夜もあいていま

す。建物はコの字型になつていて、真中の室に責任を持つ人がいる。夜も起きていて、収容所の嫌な逃げれば見えるし、夜、誰か来た時にも、ここから誰が来たか覗けるようになっております。一時の収容所、ハリシイヴィンダ・ホーミは、保護施設に併わせて、その前の施設として是非必要であらうと思います。もつと具体的なことを言えば、八虫をつけた女も来ますので、その数も清潔を主にして、ベッドなども消毒し易いものを備えています。寮の関係者達はしきりに、一寺又各の施設があればよいと言っているのです、これは考慮してほしいと思います。

それから法律が出来て更生保護のことが考えられる場合には、現在あるいろいろの制度をもつとフルに動かすことを考慮していただきたい。例えば、法務省関係では保護司がいます。厚生省の関係では、民生委員、児童福祉司がおり、福祉事務所、生活相談所などがあります。労働省関係では婦人少年室協力員や、職業安定所があります。運輸省関係では鉄道公安官がいます。警察官の活動も一層積極的にさせたいものです。そういうものが、いまのところ、なんかばらばらに仕事をしているし、ある人々は更生寮などをよく知らないで、帰りにくいものをむりに説得して郷里に帰したりします。すると一応帰つてもまた出てくるというのをくり返したりしている。ですから将来のプランとしては、婦人相談所を作ると同時に、連絡委員会を作つて諸機関が連絡をとる。それに関連して婦人福祉司が彼等の更生保護のために尽すようにすることを考へてほしいと言つてゐる。ある人は、関係行政機関とか係員とかいう人達ばかりでなしに婦人団体とか女子の団体代表者も加えた方がよいのではないかと言つてゐる。要するに現在の更生保護の施設のほか、婦人福祉相談所というようなものを設けて欲しい。それに関連して婦人福祉司も考慮する。同時に現在の施設の長とがそこに働く指導員にも婦人福祉司の資格や、多少の権限を与えて貰えればたいへん仕事やりやすいのではないかと言つてゐます。

三、更生寮の現状

それが更生寮における仕事ですが、病気の者は病院にやりますが、病院から来たものは必ずしも病気が全快しているのではなく、伝染しない程度の者が多いのです。寮に参りましたならばもう一度よく検査させなければなりません。たいてい病氣をもつてゐるからです。それで病氣を治させるということが一つの大きな仕事です。最近衛生思想が發達してきたのは喜ぶべきことです。教育の程度が高ければ高いだけ一所懸命病院に行きます。しかし一通りよくなつて目覚病狀がなくなると行きたがらない者が少くありません。病氣はどうしても治すべきですから衛生教育は強化しなければなりません。

寮においてしなければならぬことの一つに生活指導があります。生活指導はいろいろなものを含んでいると思います。例えば服装を見ますとお化粧をし、上の方は着飾つてゐるが、下着は不潔である。少しお金があると、上の方はかり買うが、下着を整えることをしない。下着のためにお金を損みたいに考える者もある。そういうことを教えるのから始めて行かなければならない。それから安い金いですね、トマトが安いのを見ると、安いといつて山ほど買ってきて全部は食べられないで捨てしまつたりします。日常生活に計画性がない、ですからちやんと収入を得ると同時に、それをどう使うかという計画を樹てるように導かなければなりません。それから衣服は何枚持てばよいのか、収支の均衡も保つようにさせてあげたいものです。洗濯の仕方を知らないものもあります。寮に居ると窮屈だという。何が窮屈かというところ、三食決つた時間に御飯を食べるからだというぞういふ者ですから生活指導は大事なことだと思ひます。

それから他の大事なことは職業的な指導です。どうしても一人前にならなければならぬ。しかし先ず病氣は治さなければならぬので、相当実力のある者でも治るまでは簡易な仕事に携わることが必要であります。内職のようなことをさせているが、それが非常に都合の好い仕事があることもあり、ないこともあります。更生施設はあちこち分布されておりますけれども、あるところは仕事の手に入り易いが、あるところは入りにくい。景氣不景氣にも左右されます。今はどんな仕事があるかと聞きましたら、大阪から上京した寮の主任が、夏を控えて今一番忙しいのは、アイスクリームの小さいカップを折つたりする仕事であるとのことでした。すいぶんエレメンタリーな仕事で一日一所懸命やつても五十円程度にしかありません。正札に糸を通す仕事もあります。これは割合によくして五人の一日の平均が九十一円です。

病室に近いまがき堂川あたりですと前の仲間がいて騒然します。「あつてなをまつている……」なをと騒かれたり、嘲笑されてなかなか強い懸望があるように、あそれにつけても大事なこととは、身なりを整へ上げることでしょう。ちよつと外へ出ますにも、あまりふじめでは気の毒です。前の仲間に出つた時方とにへんな仲間をしてゐるのは非常に彼女達を苦しめます。他の寮のこととは知りませんがわかれわかれの席ではララ物、ワシントンハイツの婦人洋からの着崩れなどもあつたのでいます。では大分助かりました。衣服を整へさせることは若い婦人のことですから大事だと思います。

ところが施設にどれくらいのお金を当局からもつてゐるかという、甲地と、乙地で違ふが、事務費は別で甲地（都会地）ですと月に二千四百十円、乙地が二千二百七十円です。私達の案は乙地になりますが、一日分は平均七十四円六十銭となり、それで彼女達が前の職業に滞りたがらないように相当ごちそうを食へさせ、きれいにしなければならぬから

たいへんです。これに、多少赤い羽根のお金が入ってきますけれども、それともたものではないのでなかなか苦心があるわけです。

四、更生寮に關して將來への希望

それから、前に述べたような内職ばかりさせてはいつまでも一人立ちできないので、どうしてもその他に職業指導をしなければならぬ。未だ進駐軍がいた時分に、職業指導のことをすいぶん寮の人がやかましく言つたら、それでは補導所に出せと言つたそうです。一応それはそうだが、補導所はまたそこにあらぬのではないし、補導所に行く途中が危い。それから補導所も、厳選して入れる場合もあるらしく誰でもいつでも都合よく入れるわけではない、入つても往復の途中誘惑もあるし、病氣を持つてゐるような場合ですと工合が悪いので、各施設でなにか職業指導的なことを行ななければならぬのです。それには、指導の人も必要ですし、設備がほしいのです。大阪の寮で、最近娘達が算盤を習いたい希望をもつても熱心にやつてゐる。算盤などはこの職場に行つても通用します。簡単ですから、寮でも容易に備えておくことができます。算盤はたいへんよいと奨励してゐます。ミシンなどになりますと、機械が必要の上、材料が必要で、みんなの直し物ばかりでも張り合はないでしょう。うまく仕事がある時はよいが、そう許りゆかない場合が時々あります。もつとも彼等が相当熟練すれば外から近所の人の注文をとるといふこともできます。その他に邦文タイプとか編物などを教えているところもあります。職業補導所はありますけれども、できれば施設においてそういう職業指導ができるようにしていただきたい。愛光女子学園なども職業指導を行っています。このように滋養関係の少年院では現に職業指導を行っているもので、それと同じように、していただければよいと思う。

彼等は生活保護法に準じて、保護を受けてゐる。生活保護費も多少の収入があると言引かれる生活保護を受ける者の身許は、相当調べられる。これは、いまのところは大目に見られてゐます。その理由は保護を受けてゐるのが僅に九百名足らずだからです。

前述の相談所ができたからと大勢を収容する必要を生じましようけれども、現在は連絡に不備な点もあり保護を受けたらよいと思ふものが国許へ帰されたり、時には引受人といつても特飲酒のおじさんに連れて行かれたりすることもあります。とにかく九百名ぐらいですから大目に見られてゐます。しかし厳密に言えば生活保護といふことになる内職したり、あるいは外に出て仕事をして収入を得た場合差引が出来ます。そこで彼等は生活保護とは別に考へてもらいたい。生活保護の場合のように身分を洗いざらにされたりしますと、彼等の多くは失望落胆します。東京でよい仕事をしているように国元に言つてゐるのが、調べ

られてそうでなかつたことが明かになりますともう立ち上る勇氣がなくなります。そのような歌で別扱いをしてもらいたいと思ふいます。

寮において喜ばれるのは音楽です。楽器とかラジオは是非どこでも備えておきたい。レクリエーションとして歌の指導をするようにしたい。この間立川の寮で聞いたが、某寮の相当の家の娘さんで、東京で音楽学校に行つてゐたが、ある事情のために自分で寮に飛込んで来た人がありました。その人は我ままいづばいに育てられ、自分で洗濯したこともない。汚れたものを行きに入れて家に送つて洗濯してもらつてゐました。寮に来て始めて洗濯の仕方を教わつたといふ。音楽は真に好きで相当うまかつたといふことです。娘達に歌を教えてくれて、非常に朗らかでよかつたといふ。これは聞の女ではなく失態して、助けてもらひたくて来た人でいまはまだ学校へ行つてゐます。生活指導の中には歌やレクリエーションも入れたいものです。

これは職業指導とはいへないかも知れませんが、女の人のことですから御飯の炊き方は教えて上げなければなりません。炊けない人もゐるのです。ちよつとしたお菓子の作り方、最近のハイカラなサラダやトンカツの作り方などを教えて上げると、喜んでゐます。寮において、おいしい食物をみんなで作ることは、生活指導の中に含めなければならぬとおもひます。

どこの寮にも精神薄弱の者がゐる。彼等はどこにも出せないで、いつまでもいつまでも寮に根を張つてゐる。これでは寮はついに養老院になつてしまふ。精神薄弱者があると他の者は失望する。彼等はみんなの前途を阻みます。鑑別しまして、精神薄弱者のためには別の寮を設けてそこにに入れてもらいたい。その人々にふさはしい保護を加へることにしてもらいたい。

それから、数は多くないが、愛憎者や精神異常者等がゐる。そのような者も、別に、しかるべき指導を与えてほしいとおもひます。

さらに更生寮から一歩進んだものの必要もあります。四谷に婦人寮があります。救世軍では始めに立川に寮を設けました。立川では彼等は専ら寮にいて、病院に通つたり内職してゐます。立川を卒業し、外へ勤めに出るようになったものが独立して社会に出る一歩前の施設として設けられたのが四ツ谷の婦人寮です。あれは一つの試みですが、この種の婦人寮も必要でしょう。この段階になれば収容費は払われなくとも事務費だけでよいと思ふ。いま四谷に二十七名おりますが、みんな外に出て働いてゐます。彼等の職業は事務員四名、工員六名、簡易な仕事五名、ミシン二名、刺繍三名、洋裁一名、給仕一名、掃除婦一名、賄ひ婦一名、店員一名、等であります。最高は六千円くらいで最低が二、三千円です。これでは未だ独立はできません。どこかに下

宿をしたらこれではやつてゆけないで、また元のもくあみになる怖れがあります。六千円もとるようになったら多少は寮に入れた方がよいと思うけれども、現在の法律の建前ではそうはなつていません。寮としては取れないので、「貯金をなさ」と貯金させています。

往來ふとんだ貸していたのを、これだけの収入のある人にはぼつぼつ自分で作らせたりするようにしています。六千円もとるようになったら、更生寮とは別の施設に置いた方が独立心を養つてゆくためにもよいのではないか。おいおい種類の違つた施設も盛ましく、更生寮を卒業した段階の、外へ動めに掛ける娘さん達の寮もほしいと思います。

五、一般社会との融合の問題

動めに掛けます際には、女の人達のことだからデリケートなことがあります。たいてい安定所で職業を見つけていたたいいます。こういう寮におりますと、兎笑が恥ずべきことだということを考えるようになります。こちらとしては、彼等が職場でどんなにしているかということを知りたいし、厚生省あたりでも、職場訪問を奨励するので訪問すると、彼等はそれをとて嫌がり、今日は、先生が来たからわたしの以前の商売のことを言つたのではないかと泣いている。職場訪問は当分やめようと、四谷の寮で二週間やめていたら、ある職場から電話がかゝつて「あの娘さんは十日ほど来ていないどうしたのか」という。毎日おべんとうを持つて出ている筈なのにと調べると、その娘は本が読みたいくて毎日図書館に行つていたと言います。少しお金もたまり自分として静かに考えたかつたのだと言えはむりもない点もあり、むやみに叱るわけにはいきません。このように法律だけでは考えられないデリケートなこともありますから、よく汲んで上げなければなりません。

更生寮では私をしてゐるのかわからないのでは困るので、社会の人には知つてもらいたいし、婦人団体の人々には協力してもらいたい、宣伝すると彼等の心を傷めることになるので、何処までも注意しなければならぬ。

それから前に述べた寮へ来た経路の中で、新聞や雑誌を讀んで来たのがあります。新聞雑誌で書いて呉れることはよいと思ひま

す。しかし扱い方には気を付けていただきたい。ある寮で、どこの新聞社が漫画をかく人を遣し、その新聞社が新聞を載し、たぞうしたちをその娘さんたちが、職場で服従にかれこれ言われ、働き難くなつて非常に困つたことがあります。そういう施設があるということを知らせていただきたい。それを見て飛び込んでくる人も、更生を志して来る人も生じるのですから。しかしその知らせ方が不真面目であつたりすると逆な効果を来すので、注意していただかなければなりません。この間立川で聞いたが、ある新聞社の映画班が、立川の更生寮の写真を撮りに来た、ニュースにたいへん美しくその写真が取り入れられたそうです。射切りされたその日の日附で手紙が吉原にいる娘から寮に届て来ました。「今日映画を見たら、あなたが来しようにお褒め歌を歌う顔が見えた。背てわたしも寮にあなたと一諸にいたのに、わたしは泣落して悲しい。あなたは、頑張りなさい」という涙の流れるような手紙でした。しかし本人はどこにいるか所帯は、はつきり書いてないので連絡の取りようもありませんでした。新聞や雑誌や或は映画に出たために、仲間から逃げてきたのに居所が知れ狙われることもあります。マスコミエニョをシヨジの方になります、どういふことをどう紹介したり、扱つたりするのが、一番よいかは、大事なことで研究を要するとおもいます。

一 売春問題とマスコミュニケーション

私の考えております性教育の中には、もちろん社会教育ともいうべき「売春婦を賣るな」、「売春をするな」、という説得も入っていますが、そう言っただけで果して教育ができるかどうか。ということを話のきつけに、むしろ後で御質問に答えて進めてゆこうと思います。

ここで売春問題から離れたことを述べますのも、売春行為に対するいろいろな啓蒙活動の中で、マスコミュニケーションの理論を頭においてやつていたというわけですから。もとより私は今の売春の禁止法が、成文化しようとしまいと、当然こういう行為は直らない、これには何年と百年の計を立てなくてはならない。ちよつとのことでは性的態度、性的ふるまいというものが変えられるものじやないと思つています。だからむしろ枝葉末節のところ、例え目があるに拘わらず、今の家庭教育とか学校教育とかで、どういふふうに親が子供に売春のことについて教えたらいいか。あるいは新聞記事などでこれをどういふふうに扱つたらいいか、どういふ問題は取扱つたらいいか、悪いかという問題。また映画の中で、売春制度をかなり承認したようないろいろなシーンがあるがどういふものを見ても、どういふ影響を及ぼすだろうか。その他いろいろな売春制度に連なるシンボルが世の中にはたくさんある。例えばおいらん道中などが名所の中に残つてゐる。それから、これは売春制度ではないが京都に中学生が修学旅行に行つた時に、舞妓はんを聞いてゐるいろいろな質問をします。おいらんと舞妓はんは姉妹関係にあるかどうかなんてことも考える。魚所は分らなくてもこれでいいものかどうか。まるで売春制度を支持するような施設、シンボルが世の中にたくさんある。これをいつたいどうしたらいいか。

それから言語の中にも、売春的な言語というものがたくさんあります。例えばこれは男の中だけの話ですが「いい玉だ」というのは砲兵からきた兵隊用語であります。女の半玉とか一本とかは、この「玉」と関係がありそうです。それから「水あげてやろうか」という。それから「女にしてやる」ということがあります。これも芸者の水あげからきています。

社会学とか社会心理学などではどういふコミュニケーションによつて、どういふところで子供が知らず知らずの間にそういう制度を承認するような人間になつてゆくかということをよく検討しなければいけない。誰か体系的に、性の社会教育学というようなものをガツテリと研究してゆかなければいけない問題と思ひます。

これらは、性教育の可能性を考えてのことです。パンパンの制度が承認されているから買ひ人は出てきます。賣ひの社会的な意味を教えることも性教育の一つで、重要なものです。しかしこうした全般の性教育が行われるべくして割合に行われておりません。

二 性教育をはばむものー本能論、ホルモン論

この教育を断念させる力となつたものはいろいろあります。中に、マクドューガルという社会心理学者があります。一九一〇年代に本能論を盛んに説いて、人間の社会行動をなんでも本能論で説明してしまつた時代があります。これが他の面で現れたのが「戦争は本能だから避けられない」という。人間に毒舌を流した一種の議論です。

性教育なんかは、その伝でいへば本能に決つていて教へなくてもわかるんだ。また売春制度については「男」というものはそういうところで遊ぶ本能を持つてゐる。そういう本能が人間にあるということになりましよう。これが非常に性教育なんかにはじやまになつて、性教育不要論を唱へる人が今まで世の中にいたのでしよう。

ところが、性行動というのが本能によるものかどうかというものは、その後いろいろな方面から研究がなされていますが、人間の場合に、性の反射というものはありますけれども、異性が好きになるといふようなこと、極端には自慰行為といふようなものすらも、なんらかの教育が行われなければ人間にはできないものだといふ例証が挙つております。

有名な例で、フランスのイタルという学者が、百五十年ほど前に、南フランスで、蜂の中で発見しました野生児があります。この野生児は狼かなんかに育てられておつたらしい。発見当初十才くらいの男児でしたが、この子供が青春期になつて、性の衝動はもつてゐるにかかわらず、全然性行動がとれなかつたといふ例があります。なにか多少女の人が好きらしいといふ行動は見られたのですけれども、これは有名な例であります。人間の環境の中に住んでいなければ、性行動は発現しないということにいつています。

もう一つ大きな研究の方向は、民族心理学とか、文化人類学の方の系統の研究です。これは前世紀の半ば過ぎくらいからですが、未開民族の生活が非常に知られるようになって、中には、今まで母親は子供を育てる本能があるということが言われておりましたが、男が子供を育てる民族なんかも発見されました。そういうことで考えますと、一つの社会の中で本能といわれていることが、よその社会では本能でない。ということがわかつてきました。有名な例では、マリノクスキー、マーガレットミード等もそうです。未開人の生活を知つて、本能論がこわれてきました。また動物の飼育によつて、人間が非常に個性のある性生活をするということがわかつてきます。ネズミくらの動物ですと、全然隔離して生活させておいた場合でも、いわゆる青春期が参りますと、全然見たこともないのに、親と同じ性行動をとることがわかります。これは本能といふことが出来ますが、少くもチンパンジー以上は本能としては同じかもしれません。飼育された環境によつて全然違ふ。チンパンジーの場合ですと、小さい時に飼つておく時の養育方法によつて、性行動のやり方が全然違つてきます。このようにだんだん高等になればなるほど、環境からの影響が強いのので、人間の場合には、ある人にとつては、外で遊ぶことは本能であるといつてしかるべきかもしれませんが、ある人間にとつてはとんでもないことになり得る。全然幼児からの育て方に問題がある。青春問題等も、先の先の問題と思ひますが、そういうところから押えてゆくことが必要と思ひます。

それからもう一つ、人間の本能に関する考え方を非常にじやましたのは、性ホルモンの学説です。今でもこれに対して非常に迷信的に強調する人がおられます。先程のマクデューガルの学説も、ホルミックス心理学に入れられますが、関連をもっているのでしょう。本能論で、なんでもホルモンを注射すれば性行動が盛んになる、生理的な根拠ばかりを求めようとするような一種の偏向が行われた。ところがネズミの実験では、童貞の男ネズミを去勢した時には、一生、性行動を行わないということがわかりました。人間の場合でもネズミの場合でも、一旦性行動を行つた動物は、これを去勢して性ホルモンが分泌しなくなつても、性行動をちやんと行ふのです。ですから、戦争で睾丸を失つた男子が、結婚生活ができないと訴えて参りました例がありました。が、事實は結婚生活ができるのです。私の知つてゐる例では、睾丸の結核をやつて睾丸をとりましたが、大体夫婦が円満に生活ができる性行動が継続しているということがあります。

そういうふうに考えますと、われわれの行動は、なるほど根本的には生理的慾求に動かされておられますけれども、その生理的慾求を動かすものは、一般的活動といわれる領域のものです。これは、ネズミが、発情期になると、

る。回転計を使うと、一日に何マイル走つたかという測定ができますが、ネズミの場合は四、五日に一回ずつ、一日十五マイルくらい走ります。ところがそうでない日は、一マイルくらいしか走らない。一般的活動の面ではたしかに変化があるといふけれども、それ以上の非常に複雑な、特に人間におけるような社会的な行動としての性行動などというものが、全部が全部、ホルモン自体でどうなるというものではありません。ましてや多少アブノーマルな人間——女性に近いような男性にホルモンの注射をして、非常にエネルギーをつけたとする場合に、男性的になるんじゃないんです。エネルギーがいよいよ強くなりますので、いよいよアブノーマルな生活を送けることになる。ホルモンなんかで簡単に、男らしさ、女らしさの隅隅までもつまり、文化の中に生れたことによつて生ずる、生れてからの訓練によつて獲得されたものまでが、ホルモンによつて、影響されるなどというのは、ゆきすぎた考え方です。そういうホルモン学説ができた時に、なんでもこれによつて性行動が決定されるといつた考え方があつて、性教育不要論……それならばホルモンの注射をしたらいとか、ホルモン系をぬいたらいという極端な考えもありましたが、今日の研究ではそういうことが云えないのです。ジエネラルアクティビティだけでありまして、隅隅に至るまでの社会行動まで規制されやしない。だから、性教育というのを根本的に抑えてゆかなければ、なんの制度も風俗も直すことはできない。性行動とかホルモン学説が人間の社会行動全部を規定してしまうという考え方をとり入れたならば、青春問題などやらない方がよろしい。われわれはあくまでも、小さい時からの文化的条件づけ（カルチュラル、コンディショニング）——つまり広い意味の教育が可能であることを信じなければこれはやつてゆけない。

だから私は、皆さきがマスコミュニケーションで青春問題を扱ひなされる時に、本能論、ホルモン論というようなものはおくびにも出す必要がない。男の本能ということをおくびにも出す必要がない。すべて社会的に獲得される一つの風俗だというように抑えていたきたい。

三 性 教 育

私の性教育論というのは以上のことを根本にして考えているのであります。これはかなり根本的な問題です。……今更で本能で片付けられていることまでも、社会的な条件づけによつて形成されると考える立場です。教育の可能性を全的に考える立場です。

いま性教育が必要なことというのは、いくつもの段階があつて、わたしにとつては、売春をするなということと、売春の末のことです。それから、結婚前は童貞でいなければいけないということは、わたしにとつては先の先のことです。その前に、もう少し人間の本能を円満具足に発達させるための基礎、女が男を好きになり、男は女を好きになるという基本的な方向と、むしろそういう意味で愛情的な、初めからゆがめられていようなものを直すことの方が、実は重大だ。そのためには私は、治療上、やむを得ず「お前は売春婦のところに遊びに行つた方がいいだろう」ということをいわざるを得ない時がある。私にとつてみれば、売春婦のところに遊びに行こうが、結婚前に童貞を破るうが、それよりもその人間が異性に対してのもつと積極的になるように方向付けてやりたいこととある。それ故にいろいろの面で、性教育は教わらなければいけないと思います。特に本能に關係することは幼児の、小さい時の教育が必要です。ごくその末の末のところにある。結婚前は童貞でいるとか、あるいは売春婦を買つてはいけないということは、これはごく小さい時の問題ではなくて、かなり大きくなつて、小学校の高学年くらいになりましてから、そういうふうな導いて行くようなインフォメーション。……口によつて教える教育というのが餘餘に始められなければいけないと思う。しかしそれでも、男女の基本的な人格とか、男と女との位置の承認ということになります。そういう根本的なものというのはもつと小さい時から実は行われている。ほんとうに三つ四つの時から、両親の間で互の人格の尊重が行われているかということが、将来売春婦を買つか買わないかということにも影響してくる。相手を尊重する。しないという気持が、小さい時から養われているならばめつたには買えるものではないと思う。

それで、特にここで売春問題について考えなくてはいけないと思うのですが、要するに性教育というものを諦めないでくれ。子供の時のしつけから、ほんとうに性教育は行われなければいけないけれども、抹消的な、社会の、世の中の習慣だとか、いろいろの制度というふうなものが、個人に非常に影響を与えますので、これを教えることは小学校の後学年くらいから、啓蒙活動として行わなければいけないということを私は申し上げておきます。

ほんとうのことを言いますと、売春制度がよくないということは、私は子供達にはコミュニケーションにはせたくない。それだけ売春制度があるということを承認するから、理想的に申せば、これは見ないで済むような、そういうことにふれないで済むところの教育が、実は必要です。こういう線はある程度までは考えてゆかなければいけない。これは今度の鏡子ちゃん殺し事

件でもそういう意見を發表しておりますが、大体鏡子ちゃんのような事件が出たということを新聞で讀けば、ちよつとおかしな奴はみんなそういうことをしたくなる。だからある程度は、こういうものは、くさいものには蓋をすることが必要です。子供が列車に投石するということも、新聞に書けば書くほどやうになる。だから、できれば見せないで済むようにする。取り上げない方がよろしい。しかし子供はいろいろのシンボルにぶつかるとちよつと歩けばパンパンがいます。だから、ある程度はインフォメーションとして、口で教える、教育としてこれを批判してゆかなければいけないと思う。これは、文部省の純潔教育委員会でもさんざん言われたが、マスコミュニケーションで教えるには、高等学校くらいになつたら、売春制度があつた方がいいかどうかということとを社会科のディスカッションをするように考慮をなさることが必要と思う。

それから今伺つた山室さんの、更生しようとする人達の話というのは、(山室民子氏売春婦のアンタケヤの項参照)そういう人達が、眼にふれるように、新聞に載せる必要はないとしても教える必要があると思います。なぜ必要かという点、私共社会に生きてゆくためには、なんとかしていろいろの慾望というものを社会に差支えないようにみたくなければならぬ。ここによい見本があるとすれば大変参考になります。あの人はああいうふうな更生したそうということが一つでも二つでも多くのそういう人達に知られればいい、あんまり美談はだめですがね。

日本では、肺結核に対してはいろいろ「保健同人」とかいふ本が出ています。いかにして病氣というものと闘うか、ベツトに寝ていて氣の持ちようが大事だ。どうやつたならば人間は生きてゆくことができるかという適応の仕方が、結核などでは語られているが、病氣でないが根強い社会生活の中の問題に対して、適応をしなければならぬことが教えられていない、買つてはいけぬ、どうして買わないですむか、パンパンになつてはいけぬ、どうしてかからないですむか、それを教えるべきです。更生しようとする九百人、千人のために更生した事例を集めたパンフレットのようなものを配つて、あの人がそうやつたのかという……あまり婦人雑誌に出てくる見本のような美談はいけぬが、ある人は職場で結婚を求めた。あるいは、算盤が一人前になつたといういろいろなケースがあつたら、身近にそれを教え、伝えるべきです。そういうものをたくさん読むということによつて適応の仕方が覚えられる。その中に結婚した人が一人いるとみんなが明るくなつた。これはコミュニケーションのつてゆけばいい。こういうのが映画化されるといふことがある程度あつてもいいと思います。

そういうように、社会の行動に対するわれわれの適応の仕方というのは、実は私がさんざん子供に対して行つてきたこと

とであります。それが大体こういう人達にはできていないというのは、親が小さい時から適応の仕方を教えていないのです。洗濯の仕方を知らないという子供が、今の世の中にいるというのは社会適応からして親の責任だ。親が犬を怖がると子供も怖がる怖れずに犬に対して適応行動がとれないのは、親の見本がないからです。大くもいなくともいいが、売春婦を買つてもいいかどうかという事は非常に小さい日常生活の訓練の中から出てくる事です。どういふのが理想的な家庭か。父親が天地に仕えることなく売春婦を買つたことがないと言え場合、その両親のしつけはどうだったかということを書いて子供に教育に資するということがあつてもいいと思う。こういう根本的対策が必要で、これはなかなか自信があつて、そういう経験はありきでないと育める奴はありません。ですから天地神明にはじり、妻若以外には女性と接したことのないという人間を見つけて下さい。こういう人間はどうして育つたかということを研究する必要がある。思春期の時はどうやっていたか、恋愛の時はどうやっていたか、そういうケースを研究していただきたい。悪くなつた例はいろいろある。あるいはいくじなしでできなかった奴、あるいは厳格過ぎて行かれなかつた奴もある。中には非常に適応のうまい奴がいると思う。こういうことは、パンパンを買つた奴をとめるとは別に大いに参考にさせていたきたい。けれども実際には事例があまりわかつていない。あたりまえのことのような、結婚とはなんだ、ということがわかつていない。この頃は子供のしつけ方で、波多野勤子さんが「幼児の心理」を著し、山下さんが「児童相談」という本を書いているが、これは大体、パーソナリティーの基礎をとつてあるようで、学校の成績がよくなるように、泥棒をしないように、常識的な人間を作るといふことでしようが、その中には、女をどれだけ大事にするか、パンパンを将来買わないようにするにはどうしたかといふ含みが少い。性教育の面ではつきりそういうものを批判する人間はどうしたか、根本には教わつていふと思うが、もう少しそういうことに着眼する必要がある。それには、世の中で模範的な青年といふのをすつかり調べてもらいたい。わたしは必要だと思ふ。工場の中なら中で、わたしこそ買つたことがない、なぜ買わなかつたかといふことも分析してみる必要がある。なかなか面白いと思ふ。そういう運動が起れば、わたしは協力したい。八〇年くらい買つていふ。その中で二〇％がなぜ残つていふか。早く結婚するといふこともありまして、なんと一つでもアジヤ・ストメントがうまい。その点では大学生が適応がうまくなつていふ。大学生が意外に童貞です。今から二十五年くらい前は、半分が非童貞でした。ところがこの頃は三〇％くらいが非童貞です。特に国立大学では非常に童貞率が高い。いつたいその当時と今となりが違つてきたかといふことも分析する必要がある。そういうデータが捕まなければ、これからの教育をどうするかと

どういふかなかなか決らないと思ふ。

さて、少し本題に近ずけるとして、マスコミュニケーションの娯楽的なこと、ラジオなら、教育が中心となつていふのと娯楽が中心となつていふのとありますが、そういうものを子供達や青年達が見た場合に、いわゆる性的な刺激になるかならないかという問題を検討しなくてはなりません。私は、いふ問題になつていふような性的刺激はかまわないと思ふ。たゞ、こゝでの問題にすれば、売春問題についてはもう少し嚴格に取り締めてもらいたい。特にアメリカ軍がいなくなつてから、女を大事にしない場面が出て容認されるようになった。アメリカ人が居た時は、女を敬ふということがやかましく言われたが、日本で娯楽するようになつてから、比較的ルーズになつた。あらゆる機会に、女を大事にする、うなことを尊重するマスコミュニケーションを私は尊重しなければいけないと思ふ。それ以外の、セックスを刺激するものといふだけであまり敏感になる必要はないと思ふ。

それからもう一つ、そういうものについてはなんといつても、健全な大人の、そういうコミュニケーションに対する反応の仕方を教えないといけない。セックスに対する映画を見せてもいいが、それに対する健全な大人の反応の仕方を子供に教えるといふことです。これは教育の技術として是非しなければならぬが、映画で非常に長い接吻の場面がある。その時にどういふふうにするか。「いやあね」と言つたあとそれつきりです。子供はその時にどう判断したかいいかわからない。その時に必ず大人の顔をうかがふのです。大人はどう判断しているだろうかといふ事を直観的に学びとるものです。そういうふうにして、世の中の社会的規範は根柢としてくちくちと、言語で伝えるといふことも必要ですが、まず子供の時にはそういうものに対する情緒が衰微などをとめて教えられる。汚らわしいものとか、娯楽と見ていて差支ないとか、いろいろのむしろ根本的ともいえる反応が出て来なければならぬ。……いまのうちにPTAの母親達に、一語に映画に連れて行つて、そういうところを娯楽と見せろ、性的な問題が出たような時に戸惑ひしたような顔をするな、といふのです。但し不当な、通念に反するようなほめ方や感じ方をしたりするとはいけないが、刺激は、ある程度与えた方がいいと思ふ。年頃になつて来る前に、準備をしてやらなければならぬ。むしろ年えて、平気になるような傾向にしておかなければいけない。長い接吻の映画を見たお母さんは知れん顔をしてみるか、或は「ずいぶん長いわね」というくらいのことと言つてもかまわない。子供の眼を抑えるようなことをしてはいけない。これが、マスコミュニケーションに対する一つの態度のとり方です。

だから、心があるならば相当子供を教育する自信があるものでなければ道行、心中という歌舞伎は見せるんじゃない。それを子供に見せて、ああいうものは今、ないんだ、あれは籠の鳥といつて、かわいそうだということを首肯で教える自信のないものは、子供に歌舞伎を見せたりしてはいけない。こういうふうな啓蒙というものは、立法化とかが行われると同時に、抜本をくげんというか、百年の大計というか、なにか非常に根本的な、社会の規範に対する感情的な反応の訓練というものを小さい時から計画を私はどこかで立てなければいけないと思う。文部省の性教育が決して冤容問題と離れた問題であり得ない。こういうことについては相当注意を払って、お互に協力すべき面が根本においてはあると思います。文部省の性教育の方が、より根本だと思います。今の火魚の問題として冤容問題をどうするかということは重要ですが、根本の方を押えて、プリンスパールの理論の根本は、共通の問題を持つて行かなければ歩調が合わないと思います。

はじめ少し準備したのですが、途中で変更したのでだいぶチグハグになつて申しわけありませんでした。

社会調査の結果からみた赤線区域

一 調査の概要

社会調査の結果から赤線区域をどうみるかということをしやべれというお話ですが、社会調査の面から赤線区域をみるということは実は失敗したと言つてもよいのであります。それほど従来の一般的な社会の調査と赤線区域の調査との間に方法の上で大きな違いがあつたわけです。いろいろな妨害があつて良心的な調査がはなだやりにくく、そうこうしている間に一年の歳月が過ぎてしまいました。むしろ私のやりました赤線区域の社会調査の失敗のコースをお話するということによつてかえつて赤線区域の実体を御推察願えるのではないかと考えるわけです。

調査を始めるにあたり、社会調査の原則からいえば、先ず正確なサンプリングを行う必要があります。そしてそのサンプルについて詳細なインタビューを行い、さらに必要な心理学的なテストを実施するという計画を立て、このようにして、得た資料により、一応の観察を行い、それを幾つかのタイプに分類して、それぞれのタイプに属する主な形態について集中的な調査を行う予定でありましたが、全然失敗に終つてしまつたのであります。先ず第一にサンプリングを行うことのできなかつた理由ですが、それにはサンプルの母集団を具体的に明確にする必要があり、母集団がばらばらな場合には名簿がほしいわけですが、金業館の名簿を手に入れることはほとんど不可能に近いのであります。そのため若干の偏りを覚悟の上で、検診を利用してランダムにインタビューを行うことを考えたのであります。この場合量的に相当多くのデータを集める必要があると考えましたので、東京都の性病予防課に検診の場においてインタビューを行う便宜取扱いの方をお願いしたところが、性病予防課では、「検診は各業者もしくは業態の自発的な行為によつて行われているので当課の管轄外であるため、そういう便宜はとりはからうわけにはいかない。当課の権限で出来ることは青線区域や、街頭でキャッチした女についてでそれなういふ程度でも便宜を計りませう」というのであります。業者が話をして了解を得るか、あるいは組合を利用して話ができるかと思つて考えましたが少くともその結果から得られた資料の信用度は低いものであり、若し業者に話して失敗したら、そのあとは手も足も出なくなるであらうことが明かなた

めに、この計画を「一応拋擲」した。そうしてとにかくどこかに突破口をつくつて突破口から先ずひつかかつてきた業態の平
を通じて何人かの業態のインタビューを試みようということになり、この方法で最初に新宿の女との連絡がつき、大抵
新宿の女を中心にして二十数人の女とインタビューを行つたのであります。これはもちろん店でやるわけにはいかないの
新宿の一角のお寿司屋の二階を借りてそこに女の都合のいいとき、映画に行つた帰りとかを利用して来てもらつたのであります。
それからもう一つは今度は赤線区域のエロロエロの学の問題であります。これは、赤線区域という、類縁の区域ができたため
に一般の周囲の平常な社会がどう變つてゆくかということを考えました。古い赤線区域でなく新しい赤線区域の「鳩の街」を
えらび、赤線区域のできる前の状態、さらに赤線区域ができた今日の状態というものをできるだけ正確にあつてみてその姿
化の仕方を明かにしようとしたのであります。都市地理学の人にたのんだのですが彼等が鳩の街に行つて色々話を聞いてみると、
正面切つて反対はしません、先ずその地域の地図を、渡つて写させてくれないし、組合長に会いますと、一休何をするのだと
いうわけで、これに対し、「社会の病態的現象を究明するのであるから協力してくれ」と言いましたら、病態的現象の親玉だけ
は協力してくれないのですが、とにかくどんな測図を進行し始めました。この理事長は御承知のように区会議員であります
し、その上に某政界の支部長であります。今神崎先生に承りますと〇〇組の子分にそうで、なかなかたいへんな男だそうです
ともかも政治的な力によつて科学的調査がこれはと強くじやまされるという例は非常にめずらしいわけです。
もう一つ、これは現在赤線区域がでかゝつていて、この問題を中心に地元の政治的な権力と他の集団とが対立して社会的緊
張を引きおこしている例をとりました。この調査は業態の内部に入らずに、周囲の構造がどのように赤線区域を成立せしめよ
うとしているかというところに重点をおいてみたものであります。
以上三つの点につきまして具体的な報告をさせていただきます。

二 調査結果について

1 業態の生息

先ず最初に二十数人の女の人のインタビューの結果であります。この結果を統計的に処理いたしましても、この例致では
全く意味がありません。従つて事例的に二十数人の業態の生息の歴史を細かく書述してあるからお手元にお届けいたします。

新宿の女たちとのインタビューの結果、現れて来た典型的な新宿における業態の生息を御紹介いたします。
彼女、生れは神戸で、東京に上つて来て生活の破綻から転落した。(後述) 学校は旧制中学校を卒業している。この人に
ついて先づ病歴について聞きました。病歴にかつた事があるか、という問に対しては、かゝつた事がある。淋病にかゝつた
事がある。何年位前にかゝつたかという、一年位前にかゝつた。この人は淋病以外の病歴にかゝつた経験がないと聞か
れます。何処で治したかという、新宿は組合の診療所があるがそこには行かずに他の診療所で治している。診療費は一
回で千円とられており、その金は自分で払つてゐる。ペニシリン四十万単位打つてゐるようであります。ペニシリン四十万
単位で千円、そんなに高いとは思いませんが、唯一回のペニシリンの注射では、恐らく根治してゐるはずがありません。当座
の苦痛がやわらいだにすぎますまい。驚くなかれ二十数人のインタビューの結果は性病にかゝつた経験のないものは一人も
いません。しかも経験はみんな自己負担で、その治療法たるや到底根治が予想出来ないようなものであります。従つてすべ
ての女が性病を感染させる可能性を充分にもつてゐると推察し得るのであります。しかし觀念的には自分が病気になるという
事は困る、少くとも自分で意識して工合が悪いという事になりますと診療所に参りますし、平常も出来るだけ性病の機会を少く
しようと注意しています。お客にたいしても、性病の予防の措置をとらせることは考へてゐるようです。しかし一日に來た
五人なら五人のお客が全部性病予防の措置をとつてゐるかというところ例はまれであります。いいかえると一日に少くとも
一回以上感染したり、させられたりする機会をもつてゐるようです。

次にこう言つた生活の中に生甲斐をすこしも持つてゐるかどうかを中心にして色々聞いてみました。職業上の性的交渉の
中で「満足」が、どういふ割合で現れてゐるかといふと、一週間に二回位と對つております。ほかの女からもよく似た頻
度が出て來てゐるようであります。他の病歴との関係はどうかといふと、大体費用は全部自分で負担してゐます。しかし
身体の工合の悪い時の休養については余りやつかない制約をうけてゐないようであります。

次に赤線区域に入る前の経歴であります。彼女は内縁の妻でありました。正式な結婚によることなくて離れて、神戸か
ら東京に來て、その男と同居して、平常の生活をしてゐたのであります。この人には子供は生まれませんでした。彼女が最初
に男と關係を結んだ動機はどんなものかといふと、臨済した仲の男と恋愛關係に陥入り、その人に身体を許したということ
であります。彼女の母は養母で、妹達はみな養母のであつて、家庭のうちがうまうまかなかつたのは、事実であるが、職業と

父の死によつて、生活は以後窮乏していつたようである。家庭の不和と貧乏のさなかにその男と恋愛関係に陥ち入る。養母の反対を押切つて家を出たのである。ところがその男は甚だ不誠意な男だつたらしく、東京に来たら、家をあげて帰らぬ日が多く、どうしてもこの男と一緒に暮らすことができないという気持ちから彼女は家を飛び出したことは、先にも述べたとおりであります。異常なものがあります。養母と一緒に住みたくなから家を飛び出したことは、先にも述べたとおりであります。その養母に対して現在は月一万位の仕送りをやつています。この額は別に少い方であつて、

東京の職人の娘で転落した例をみますと、月二万円位の金を送つています。親元への送金・・・は赤線区域の女と通ずる普通のパターンといえます。そのような親たちは、生活保護法によつて、何等かの援護を受けているかという点、全然そんなものは受けていなければ、そういう法律に頼り度いと思つてゐるものも非常に多くない。特許街に入る動機は、彼女の場合、分特別な例ですが、その男の家を飛び出し、神戸に帰らうと厭にゆくのですが、駅で金が不足のことを知つて、またあてもなく自動車に乗つて考へてゐると運転手がどうしたかと聞くので事情を話すと良い職を世話しようというので、まろしくたのむという。そのまゝ百原に連れて行かれてゐます。運転手とその女の關係は肉体的關係は結ばれてゐない。はじめカフェーと思つてゐたのに、夜になるとお客をとれといわれたのでびつくりした。女給のつもりでゐたので、びつくりして泣いたところが、マダムは、それじゃ無理にとらんでもいい、一日よく考へなさいというのでそのまゝ一日泣いてみると、女にはこんな生活を持つた人もゐると、あきらめが生じ、そのような生活に、そのまゝするべつたりと入り込んでしまつたのです。その後、つめる人があつて新宿に転じたのですが、その時は新宿に転じた事について、吉原との間に別にごたひたはなかつたという事です。現在彼女のおりまゝ家の業態は十人位で、その経営者は沢山同様の店やカフェー等を持つてゐます。その店の他の女から聞いてみますと、その様なキヤバレーやカフェーで金を困つた女がマダムに金を貸してくれと頼むのは、いろいろ困つた事があつたりして相談にゆくと、もつと金のほうがあつたり、口があるがどうもあつたりして赤線に居残つた者が

相当あります。とにかく現在の赤線区域は女がいなければ商売にならない。沢山いれば現金をもちこみ、充分儲かるという事が経営者の意見のようでした。ところが女は従来のように簡単に集まらなないので、あらゆる手段で女を集め、落着かせるように努力するのです。

その経営者は、多角的な経営をもつて大きく網をはつてゐて、それらの金経歴をにらんでおり、各店々には妻や妾に相当する女を思ふ方向に流してゆくようです。こんな状態ですから昔のように「水あげ」を行うことはほとんどなく、その夜から前夜をはじめるようであります。この女について一日のお客をとる数について聞いてみますと、日に少い時で二三人といふこと、以前に客が少いから店主が怒るという事は現在はない訳であります。新宿では、サラリーマンが多いためか、月給日の直後には一日大体十人位のお客をとつてゐます。それでは休養はどうかという点、月に何回というきまりはなく時々とる程度で、殆んど一ヶ月に一回位、あるいはお盆の時に二、三日というとり方をしている。業態として経済的に有利な客の取り方は、「時間遊び」だそうです。それからお客をとる場合にお客が気に入らない時に女の方から断ることがあるかといふ点、そのお客が馴染のお客でなしにゆきずりのお客で、どうもいやだという時には断ることがあるそうです。女とヒロポンの關係をみますと、ヒロポンの注射の経験がないという女はない。一度や二度は必ずやつてゐます。彼女についてみるとお客さんに進められてヒロポンは一度うつた事がある。ところがこの女は體質的にヒロポンを打つと非常に苦しくなるので、ヒロポン中毒にはならなかつたと申してゐます。しかし同僚の中には相当多数のヒロポン患者がゐるようです。大体客がヒロポンを教えるというケースが多い。最高の十人のお客を取つた場合に手取収入がどの位になるかといふ点、一日七千円位であります。それ位あげない者はあまりいふ處ではないらしい。月収にしますと、この女の場合大体九万円位になつてゐます。その便益は食費が約二万円、貯金二万円、送金一万円、と申しますから衣服、化粧、小遣等に結局四万円位かゝるそうです。それでは現在の新宿における分配標準の五分々々制はどうかという点、自分等は少なすぎる、もつと分がよくていい、分け前についてはどうもうちとつと呉れ、という意見が強いようであります。彼女は、借金というのは、全然なく、繰ぎの未清算部分と、食費を他の前借り部分が相殺されております。

昼間の生活についてみると、この人は大變な人で、お茶とお花のお稽古を続けてゐると申してあります。映画にも時々参り、そうであります。彼女の養母の家、すなわち神戸の家にこういう仕事をしてゐることを知つてゐるかといふ点、すでに

知っており、かつてはとび出したほどのなまぬ仲の義母と義妹の住む家に、一年に一回位は帰るそうで、その時にはおみやげをどつさり買つて帰るので家の人は歓迎してくれと申します。義理で帰るのではなく、或る満足感をもつて、いいことをしている気持ちで帰るのです。今のように入収入を確保するためには、なじみのお客を六人くらいは常に確保しておかないとならないそうです。馴染のお客は昔の慣習通り、同じ店の他の女に横取りされることはない。又女が病氣や留守で不在の時に他の女のところにあがることは稀にはあるけれども、まあまあ馴染の客を他の女の部屋にあげることは少ないようです。業態別の馴染の客は未婚者か、既婚者かといえますと大体既婚者の方が多いようでありました。少くとも三分の二以上は既婚者で、未婚者のパーセンテージはぐつと少いのでありますから、未婚者の人達の性慾の問題と、赤線区域の必要位との間には、余り深い関係性がないのであります。

一つの店の中で支配的な勢力は、先程のお母さん、マダムと呼ばれる、マントのお婆さん。店で一番古い人はやはりお姉さんといわれ、店の中では若干の統制力をもつています。この女は比較的に進んでいて、店の内以外に吉原時代の友人、以前内縁の夫と同棲していた時代に出来た友人と未だにつき合っています。これは他の場合、非常に稀な例のようであります。

赤線区域としては、お小遣をやつている男があるかということ聞いたが、この女は持つておりませんでした。お金はあまるにはそういう男をもつていたが駄目だそうでありました。

次に外国人との関係を見ると、この女はその経験がありません。少くとも自分としては厭だということでありました。

赤線区域を生活として見る女の希望というものはなだり、将来をどうな風に考えているのかがについて、何になりたいたいかと聞かれました。この人はやはり奥さんになりたいそうです。それじや貴女のような商売をしている人で奥さんになつて事をなすつてゐる人がありますかという、自分はそういう人をまのあたりで知つてゐるのだから、あつた人になりたいたいといふことを言つてゐる。では更にこの商売について、貴女の妹さんにも今のような商売をさせてみたいかといふことについては、妹についてそういう希望は無い、もし妹がそういう商売をするといふしたら不賛成だと答えると申してあります。以上申し上げましたケトスは、新宿では平均よりも上の部に属するものでありませう。

2 地域社会の変化の問題

それから地域社会の変化の問題であります。これについては今調査中でありましたので、先般調査概要の所で申し上げたよう

なトラブルがあとつゝあるのだということを御報告しておきます。

3 赤線区域が出来た場合の問題

次に新しく赤線区域が出来た場合におけるところのいろいろな問題をとりあげてみませう。原町田の場合をみますと、町の繁栄ということ、それが結局赤線区域をつくる所の二つの大きな理由づけになつております。この赤線区域建設の計画は、一般に発表される前に、すでに町及び県の有力者との間に諒解が出来ていたと思はれる節があります。すなわち業者が突然土地を買収して赤線区域をつくる計画が発表されると、第一にPTAが反対をはじめました。暗黙の了解を与えた県会議員も町内有力者も、また赤線区域と強い利益関係にある人も、正面切つてその運動をおさえることができないので、その中に入つて反対運動をする。その間に建物はほとんど建つていつて終う。最後のどたん場になると、PTAの運動は實際的に低調になつてくる。PTAの反対運動をおこした人々の数人のみが死つて、PTAの反対運動にすらりと署名をした人々の大部分は、何時の間にか一人、二人と脱落して、実際に許可があるかおろないかという大切な時になると殆んど影もなしに消えてゆく。そして一方ではそのところになると、赤線区域が開店をするというわけです。反対し切れなかつたところでは、このような型が多いようです。

場所的にいふところは神奈川県相模原市ですが、東京の原町田との間に細い三尺ばかりの河がながれていて、それを越したところに赤線が出来たのですがその辺は相模原市から言えばしつこく知の中です。従つてその影響は、相模原市の農村には大したことはないが、近接している原町田には深いわけです。従つてこの問題は、相模原市の問題に對して原町田のPTAが干渉することになりますから、相模原の町会議員は内政干渉だといつておくるわけです。結局反対運動が長く続けられてゆく間に、意識的か無意識的か、多数の人が脱落し、結局は地方のボスの思つた通りに入つてしまひます。それに資金的にも反対運動のキャンペーンでは僅かなものです。ところが業者の方は莫大な運動費を建設費中に予想して準備し多額の金をばらまく。場合によると町の有力者の二、三人を買収して反対運動に従事している人々の身辺のスキヤンダルをばくろしたり、日本政治の縮図のようなことになつて来ます。戦後、いふ今後もなほ、赤線区域は東京以外の地では、拡大してゆく傾向にあります。非常に浅薄でありますが一応中間報告をこれで終ります。

以上

赤線区域について

平林たい子

一、赤線区域の概況

私は昔のいわゆる遊廓としての代表としての吉原と、戦後に出来た、特許街の代表としての船有と、東京で一帯繁栄している、赤線としての新宿と、三つの地域に行つて、一日半ばかり調べたことをお話しします。ごく印象的な見聞談にすぎないので、どの程度に御参考になるか心配です。

先づ戦後はじめて吉原に行つてみて、ずい分さびれていると感じました。建物もみすばらしいし、まわりの、吉原で食べているといった商売人、飲食店とか、化粧品店もあり沢山ありませんし、案外な印象がしたのであります。吉原には今二七〇軒くらいありますが、そのうち約三〇軒が売りに出ているそうです。これについて業者はいろいろにいつておりますけれども、

結局、一般的な不景気というところがありますし、売買取締法案が出て、先ゆきを心配しているということもありませう。しかし吉原のまわりには、どこでもそうですが、非常に広範な青線区域が出来てゐるらしい。夜になるとポン引が吉原の中にぞろぞろとひびききて、外につれて行くということでもあります。まわりの青線地域に圧倒されているという業者の言分は事実らしいです。

新宿は建物ばかりソクみないところで見たところ三、四百万円位の値打です。しかし一軒につき一千万円の資本が投ぜられてゐるらしく、赤線の業者は七十五軒です。しかしほかに純然たる青線地域でなくて前に貸座敷をやつていた人が手続漏れで青線地域になつてゐるが、じつは赤線と同じ扱いを受けてゐるものが三十何軒あります。だから結局新宿は約百軒、女は五百人になりまふ。なお、これに関連して働く女について、秋の盛況のことを申しましよう。

吉原に行つたあと船有で三年勤務とか四年勤務の女、二〇人ばかりに会い、また新宿でも会いました。その三つの地域の女は、同業でありながら印象が違つておりました。船有は工場地帯であります、船有の女は、野暮つたい、いなか娘という型で、新宿はどちらかといへばキヤベリーの女かと見まがうようなつくりをしたのが多いようでした。比較的な話ですが新宿の女は、ヘイカラーで髪が二、三回高いのうに見える。吉原はその中間くらいに思われました。それは各種によるらしい。新宿の

客種は殆んどサラリーマンと船有は工員が多く、吉原はその中間です。吉原といへば昔から東京で一番の遊廓のあつたところですから、伝統的にも古いわけですが、私は新宿からみてやはりちよつと、女は新宿より落ちているのではないかと思ひました。これも新宿に比べて吉原がさびれた感じがする一原因であらうと思ひます。これは勿論収入のたかにもよるので、収入の多いところによくうれる要素が集つてくるのは当然であります。

吉原の業者にも会いましたが、吉原の二七〇軒のうち三分の一が前に貸座敷業をやつていた人、あとの三分の二は前に借気屋とか八百屋とかの職業だつたが、この商売はもうかるというので資本をもつてやつてきたらしいのです。主に違反をするのはこのしろろとあがりの業者だということです。というのは、法網のくもり方を知らぬため何でも女にひどくしていれたいといふ伝統的な考えから女を扱うので、警察庁との間にトラブルをおこすということでした。

女は吉原には「百人くらいいる」といふところになつてゐるが、実際はそれより少ない。というのは、女がいかに店休でゐるものか、また女がきても一日で逃げるものもあるそうで、平均して四ヶ月といふのですから移動が非常にはげしいことがわかります。

二、売春婦の生態

私どもは女が前借でしばられてゐることを考へて行つたわけです。着物を買わなければならないし、そんな所へ入つてゆくのは勿論金のない人なんですから……借金はあると思われまふが、しかし実際は考へた借金の高はありません。業者が警戒して貸さないらしいのです。前借させてくれと女の要求する金額は、二千円くらいから、一万、二万という額です。これについては九州の田舎の赤線地域のことを前にちよつと調べましたが、九州などの田舎は東京と違つて、世論の力も弱いので借金制度がひろく行われている。着物とか、周旋屋の謝礼が借金になるし、五万とか七万とかいふ借金をみんな負つてゐますが、吉原とか新宿などといへば何といつても東京ですし、世論の力も相当働いて非合法を働くことはむしろ不利な面ですから、着物を買ふときにもタツチしないようにしてゐる。しかしそう表面はいつてゐてもやはり着物を買ふ時にはお母さん（店のおかみさん）と一緒にいつていつてもらつて買ふ。月賦で買ふにしても、直ぐ女に月賦を保障する人はいないからお母さんが保障する。そして品物を売る店とお母さんとの特別な関係があつてお母さんに手数料がいくのだらうと思ひます。

又お客さんからとつたお金をお母さんにあずけて、何日目に計算するといふのが普通で、もちろんその時にてんびきにして引くことになつてゐるに違ひない。客からとつた金を分ける場合については、昔はかゝえ主が七割五分、女が二割五分、その

内一割五分くらいが借金の返済で、女が受けとつたのは僅か一割というものがふつうでしたが今は吉原や麹町ですと、主人が六割女が四割になつており、新宿は、五分、五分ということになつていた。そのかわり新宿では女自身が食費を負担することになつてゐる。なぜ新宿、吉原、麹町が違ふかという新宿は繁華でいて、女の収入が多いから食費として、一日二百円以内を女が支払ふことが出来るのです。しかしこのことについては、やはり東京のことばかりを辨つていたら近視眼的で、田舎では違つていて、茶碗とか灰皿についての賃料がとられてゐる。分け前を一度五分五分くらいにしておいて、その他に茶碗とか、寝まきとか、灰皿まで全部貸賃をとつて、結局その割合は七分三分くらいになつてゐるところが多いですから、東京ばかりで金国を想像することは、危険じゃないかと思つてゐます。東京の方は業者が良心的なのかどうかは知りませんが、客が多いからこれでも引き合ふのでしよう。田舎の船着き場などは船がつかなければお客がなくて、毎晩お茶をひくというところから違つてきてゐるのだと思う。

客からとる料金についてはどこへ行つて聞いても一晩いくら、一時間いくら、三十分いくらという値段のきめはありません。女が相手を見て、こいつは金があるということから決めるので、まさか一時間百円、などという額では、かえ主におこられるから、そういう金額は実際は出ないでしようが、オールドナイトなら二千円から三千円、一時間なら八百円くらい。ほんのシロイタイム、三〇分くらいでは五百円から六百円くらいでしよう。あの入道のいう時間あそびというのはあの人たちとしては長いあそびになるのです。一時間で値をきめるあそびは短い方だと私は思つたんですが時間がきめる客なら長い方で三十分くらいが一番多いらしいです。そうすれば一日でせいふ分派山客をとるわけですが今は非常に不景気で吉原では三割くらい客が少く、新宿は半分といつておりました。

出身地については、遼廓といへば東北という位に思われておりますが、今は全然違つております。東北あたりから買われて来たのは戦後しばらくの間だけらしいです。吉原あたりで戦後開業した時は資本も利益も多かつたでしようが、今ではどうやらあまり有利な商売でなくなつてゐる様子ですから、余り沢山のお金をかけて女を連れてくることはないやうで、出身地は東京が大部分です。つまり親のもとを離れてから、雇かの仕事につき、そこから転じてきたということで、東京、茨城、福島が一番多いようです。青森も少しはありました。

学歴は全然無学といふのは〇・七六パーセントですから殆んどないといつてよいが、小学校の高等科出が六十七パーセント

小学校を卒業だけ。新制中学卒業といふのが二十八パーセント、新制大学とか、専門学校を出たものが〇・八パーセントですから無学と殆んど同じ位の数ですがそういう人もゐる。この入達の多くは未亡人で、子持も多く、通勤の入さあつて大部分が人妻とか未亡人とかです。昔は子供のある人などいなかつたのでしようが、今はむしろ子持を歓迎するやうです。それは動きが少いし考え方が着実だからだといふのです。

年齢からいいますと、十八才、二十才は案外少く十八パーセントで、二十四から二十五才といふのが五十二パーセントですから、昔に比べて年齢は高いわけです。それとは関係はないのですが、この間ヤバレーに行つてみたがヤバレーの女も年齢が高い。家庭をもつて子供をもつた人が多いので、こういう年齢の人々の問題は重大だと思ひました。若い人々の方が案外身のふり方がつくのでしよう。二十八才以上さへ二十八パーセントあります。

以前に何を商売にしていたかについては、人妻で家事をやつてゐたのが三十七パーセント、あるいは商売と似たような商売をやつてゐたのが三十四パーセント、ほかに事務員、看護婦が二十九パーセントといふことです。結婚の経験があるといふのが三十六パーセント、未婚者が六十四パーセント、現在夫があるといふのは四パーセント。特殊な技能をもつてゐる人間も相当あるので、美容師、交換手、看護婦の腕をもつてゐるのが十三パーセント、みんな吉原のしらべです。

転落の動機については、どうしてというところに入つたかという質問に対して、家の生活のためだといふのが七十二パーセント、好きでなつたといふのが十四パーセントですが、この好きといふのは、まさかあゝいう商売が好きという人間は、世界中おそく一人もないのでしようからブラブラしてゐるとか、多少いゝ着物に着られるといふ景品が好きだつたんじゃないかと思ひます。だまされたといふのが四パーセントあります。おそく本當のカフェーのようにいつて連れてきたのでしよう。

収入のあるカフェーといふのが、だますぜんのいつもうこととで、どこどこにゆけば月に何万円になるカフェーがあるといふんです。一番始めしろつとをだましてくるのは、かういふ手段ときまつてゐます。きてみてびつくりするが、その時逃げ出すのはよほど意志の強い人間です。あとの大部分は、そこにある人間が皆をうしてくらしてゐるので、それを見馴れて一日、二日ごはんをど馳走になつてゐるうちに、これでも女が生きることが出来るという考えに交つて行く。そして見ようみまねで同じ生活に陥て行くというのが普通だと思ひます。田舎の転落者の経路をきいたときも例外なくかういふことです。又、つづきお話ししたように非道に多動はげしい。多動の原因はいろいろですがその一つの原因は、借金がかさんだ時に

逃げてしまふ。かせいでもつまらない。借金をおいたまゝ逃げる。結婚のために出てゆくというのは結構ですけれども、その他に店が氣に入らんとか、ほうばいが氣に入らんとか、そんなのもあるらしいです。

それから病氣のことを聞いてみました。ところが、淋病は案外少い、というのはこれは表向きのことです、検診に現れたところで、罹病している人は、「赤線区域とは何か」という本でも五割と書いているが、実際は一割か二割しか現れてこないとお医者さんが言っていました。お医者さんまで疑つてかゝつていゝものかどうか存じませんが、二割位と書つております。私は五割毎に検診するというのが実行されているのかどうか一番問題だと思つたが、女は殆んど毎日自発的にみせに來ると業者はいつています。

五割毎に検診する間に病氣を發見される時は自費で治すことになりました。これはちよつとおかしい制度です、しかし業者がいう程五日毎の検診が行われていないと私は思いました。というのは、事務所の樓上に女の名前が無効に貼つてある、「これは何ですか」と聞いたら、「これはよく検診に來る人を誘引してゐる」ということで結局如何にみんなが検診に來ないかという事をあらわしているのと解釈されます。淋病が一割から二割位だと言つてゐる業者があつて正直に告白しておりきす事は、梅毒が案外多い、しかもこの間の梅毒は非常にたちが悪くなつて、みてもわからないそうです。検診でなかなかわからない、わからないまゝ漫延して行く、これこそ恐ろしいと業者自身が言つておりました。淋病の治療の方はベニシリン等を安く二十円位でやつておりますけれども、梅毒については自分達は自信がないといつていました。業者があんな事を言うかにはよほど恐ろしいものだと思います。

なほ吉原の女にヒロポン患者が非常に多い、殆んど半分以上がヒロポン患者です。これはどうにも征伐が出來ないというんですね。どこから薬が入つてくるかわからない。それで業者も自分達はボン中毒の女には関係しない。何故かといふとともトラブルを起してこまるからという事でした。

病氣を治す費用は御承知のように、吉原に女子保健組合、新宿に白菊会、龜有に芽生会というような女たちが自分で会費を出す組合があります。吉原では一日二十円、新宿では一日四十円の会費で、半分は検診の費用、半分は運営費です。つまり、病氣治療費は、彼女たちの持ちだということ。こゝに龜有の樂天地と稱してゐるところの芽生会の申合がありますので披露します。

一、私達は芽生会を組織して、新憲法下における女性としての自己を完成致しましょう。

二、権利義務の遂行と、自由平等の基礎のもとに円滑に歩みましょう。

三、職業としての態度觀念を明にして、特に公共上必要な衛生その他の知識を広めましょう。

四、社会人として立派な地歩を占める為には修養の機会を多く作りましょう。

五、会の会費役員その他は、会員の総意で決定致しましょう。

公共上必要な衛生だけはわかりませんが全体が非常に漠然としていて、はつきりしません。組織権利義務はあまり主張しないといふことですね。自由と平等の基礎のもとに、円滑にしましょう、とかあきらまざるをしないように新憲法下における女性としての自己を完成しようといふことで、こゝに抱えられた女としての分を踏み出さないようにしようといふことでしよう。どうせ業者が作つて与えたものだと思います。

なお組合役員の名前もみましたが、その数の多い事と言つたら、龜有は三十何軒業者があるが、十軒一人づゝ出ております。会長、副会長、総務部長、技芸部長、修養会長、庶務課長、検査理事、とてもいかめしい名前がついてゐます。この役員の人も会いました。役員はどういう人かという動機年数の多い人で、会長は六年勤めてゐるといふました。百萬円貯金を持つてゐる人もゐるのだが、どうみても田舎の娘さんで、顔色は勿論商売柄悪い。商売特有な色をしてゐますが、憤々しやかに歩いてゐると一寸見には、どうしてそこの町を歩いているパンパンなんかと全然違つてゐます。ついでに申す、吉原でも新宿でも女給といふのはなくなつたが、女にも区民税が課せられ、これは業者が払つてゐる。しかし龜有だけは組合費の集まつた中から金を集めて払つてゐるのです。

昔新宿の遊廓に競争が始まる二三年前に友人達と上つたことがあるんです。その時に女が髪をみな洋髪にしている。やりの嬢さんまでもみな洋髪でした。で、女の言うには「全部洋髪にしないとやかましいんですよ」といふ。それは、はいからにしくちあけないからで、あんな限られた場所にもつてゐると野草になつてうり物にならなくなるからという意味なんです。今の赤線地域と昔の遊廓と似た所があつてどうしてもやばになつてしまふ。それが現れてゐる訳です。

三、赤線区域の将来

先にも申しましたように吉原がさびれてゐるのは青線地域の為だといふ。何しろ吉原の中にボン引が来て、ひやかし等を引

振つて行つてしまふという時勢です。赤線と背線の生存競争のはげしいことを私はあらためて発見しました。赤線と背線の競争では女がやばくさいこと、税金の高いことなどで、このことだけをとれば赤線区域というものは亡びる運命をもっているように思はれます。

こゝで税金のことを一寸申上げますと、業者の税金は吉原で一年に二億くらいで新宿は四億です。吉原で一番大きい税金をかけられているのは「大華」といううちですが、一日二万円の税金がかかつていて到底税金をカバーするだけの収入がないらしい。半分くらい税金の滞納があるそうです。税金が苦しいので、非合法にもぐつてしまおうという組合員が沢山あり、幹部はそれをおさえる口実として「今に赤線地域が廃止になれば、そのとき金が貰えるから正々堂々と背線になれるのだ」と言っているらしい。これはなか。重大なことだと思います。又新宿でも吉原の場合でもそうですが、赤線地域に対して背線地域の力がすつと広い。殊に吉原の場合はそれが対立的で、背線地域に客をとられるというのです。業者が二階の窓から指をさして、あの家も、あの家も、みんなこの商売をやっている。自分達は税金をとられて、あいつ等はとられないと言っていた。

神崎さんのお話では、赤線には裏があつて、一人の業者が背線になつたり、赤線になつたりする。又女も赤線で客が来なくなれば背線の女になつて行くそうですが、しかし女の種類は赤線と背線では相当違つています。とにかく背線の方があらゆる意味で有利です。赤線は赤線、背線は背線、新宿の場合は、吉原の場合とちがつて、基本的には対立しているにしても結局は共に助け合つて共に繁栄する結果になつています。地味は背線地域は赤線の四倍と言つていますが実際はその外に背線地域が来ていますから大久保から麹町まで全部背線と替つてもいいでせう。

警察は何ヶ月に一回か背線に対して手入れをする。この手入れをするということが税金のかわりになつていゝんです。税金を出さないかわりに、手入れがあるというわけですが、しかし赤線地域にとつては、背線地域に時々手入れがあるということでは、今日手入れがあれば明日、明後日は大びらに出来るということとです。だから警察の手入れは赤線地域に対する義理立てともいえません。業者が言うには、今日手入れがあれば明日、明後日は大びらに出来るということとです。

新宿の組合長に会つた時に、「もし警察禁止法が通過して、こゝが非合法になつた時はどういふ風に振舞なさいですか」と聞いた。「私が今研究しているところでは、チヤブ屋のようにしようと思ひます」という。ところが私はチヤブ屋というものの名前だけは谷崎潤一郎さんの小説に出て来たりするから臆んで知つてゐるが、内容を知らないのだから「チヤブ屋」と

とどう思ひますか」というと「全部洋式にして、メンリとかお酒を飲むようにする。キヤバレイみたいなものにする。それから意気投合して堂に行くというような形式にすれば合法的だ」というのです。成程と感心して帰つて来ましたが、あの人は絶対にそんな事を信じて疑はないようです。今新宿では赤線地域は坪数から言つても電車が暮に來たので広範囲につぶされ昔の半分位だそうです。そしてその道路は東京都が勝手に潰つて、お金も払つていない。それに対して業者としては今となつては、どうせ安いお金で支払はれても仕方がないから地味を寄とせと替つてゐるが都としては業者は地味をやれば、あの商売をはじめに決つてゐるから、おいそれとやれないわけでしょう。ところがこれに對し業者が裁判を起している。そして土地をとり返せたらその中に浅草の仲見世みたいなものをこしらえて、樹木を植えて、と、警察禁止法がまきに出ようとしてゐる時に、夢のような事を言つてゐるのです。私は聞いて質問したのですが、絶対にこういうものがなくなるといふ事を信じて疑わないらしく、重大な計画を立てゝゐるのです。吉原でも「一体こゝを法律で禁止するといふことについて、あなた方はどうお考へになりますか」ときいたら、自分達は終戦後は御奉公したこともある。R.A.A.協会の連合時に、三千三百萬の融資を政府からうけて、鉄道から切符をもつて田舎まで出張して女達を連れて來た。又アメリカ兵が進駐して來て、連隊に入つて強姦したといふんです。連隊に強姦があるのかときくと、お金を払わないのが強姦だといふんです。面白い考へ方ですね。それを聞けると何故もつと早く聞けなかつたかと聞かれ、それからMPが調べに來て、それが又強姦する。女を窓から放り投げたりする他ビートルを落つたと言ふさわざで大変だつたらしい。「しかしその時儲けたでしょう」と言つたら、「税金がありませんでしたからね」と言つていましたが、たしかR.A.A.が出來たのは八月下旬でしたから翌年の一月に解散令が出るまでの間の儲けは大変なもので、言語に絶したものだつたらしい。「もうけたでしょう」と言われたときの顔つてありませんでした。しかし自分達は前にこれだけの苦勞もさへされてゐるので一片の法律で社会の功勞者が犯罪者にかゝるといふことは不合理だといふのです。それで私がR.A.A.協会をそれからどうなつたかと聞くと皆言葉を濁らして返事をしませんでした。三千三百萬円といふ金額もどこに行つたかわからないですね。政府が出資した株式会社ですが、勧業銀行が回収してゐるかどうかかわらないです。今の吉原なり新宿なりと資本も全然関係のないものです。R.A.A.協会は日本の観光株式会社にかつたのです。結局私共が赤線を特に問題にしなければならぬ点は、国家が高い税金をとつて認めてゐるということとでありま

す。そのために赤線が問題になるので赤線一帯から言えば背線も同じで背線の繁榮といふことは赤線地域の存在とともに重大

な関心を持たなければならぬ。経済的には赤線が青線にならうとしている傾向があり、自然の勢いにまかせておいたら、おそろく場所をかえるとか、その他の方法でみんなが青線になつてしまおうとしている。しかしそうは言つても全然非合法の方針利益が多いということも考えられない。また簡単に赤線がガラガラとくずれて青線になるということは考えませんが、赤線はもうこれ以上に大きくならず、赤線でもうけたお金が青線に投ぜられるとか、いろいろの形式で今後発展するのは青線じゃないか、とにかく憲法禁止法というものができれば赤線だけはなくならなければならぬから、今後の問題の対応は青線のものになるんじゃないかと思ひます。

1954年10月7日印刷
1954年10月11日発行

編集兼
発行人 東京都千代田区大手町1の7
労働省婦人少年局

印刷人 労働省婦人少年局

印刷所 文京区駒込坂下町110番地
電話駒込(82) 9196番
有限会社 工 文 社